

○ 招 集 告 示

住田町告示第6号

令和元年第22回住田町議会定例会を次のとおり招集する。

令和元年5月15日

住田町長 神 田 謙 一

1 期 日 令和元年6月11日

2 場 所 住田町議会議場

○ 応 召 ・ 不 応 召 議 員

応召議員（12名）

1番	荻原	勝君	2番	佐々木	初雄君
3番	佐々木	信一君	4番	瀧本	正徳君
5番	菅野	浩正君	6番	佐々木	春一君
7番	村上	薫君	8番	林崎	幸正君
9番	泉田	是重君	10番	高橋	靖君
11番	阿部	祐一君	12番	菊池	孝君

不応召議員（なし）

令和元年第22回住田町議会定例会会議録

議事日程(第1号)

令和元年6月11日(火)午前10時開会

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 会期の決定

日程第3 一般質問

本日の会議に付した事件

議事日程のとおり

出席議員(12名)

1番	荻原	勝君	2番	佐々木	初雄君
3番	佐々木	信一君	4番	瀧本	正徳君
5番	菅野	浩正君	6番	佐々木	春一君
7番	村上	薫君	8番	林崎	幸正君
9番	泉田	是重君	10番	高橋	靖君
11番	阿部	祐一君	12番	菊池	孝君

欠席議員(なし)

地方自治法第121条第1項の規程により説明のため出席した者の職氏名

町長	神田謙一君	教育長	菊池宏君
農業委員会 会長	松田秀樹君	選挙管理 委員長	平勝太郎君
監査委員	紺野仁君		

副町長	横澤孝君	総務課長 兼選挙管理 委員会書記長	熊谷公男君
-----	------	-------------------------	-------

税務課長兼 会計管理者	佐藤 修 君	企画財政課長	横澤 則子 君
町民生活課長	梶原 ユカリ 君	保健福祉課長 兼地域包括支 援センター長	佐々木 光彦 君
建設課長	山田 研 君	農政課長兼 農業委員会 事務局長	紺野 勝利 君
林業課長	千葉 純也 君	教育次長	伊藤 豊彦 君

事務局職員出席者

議会事務局長	松田 英明	係 長	松本 円
--------	-------	-----	------

開会 午前10時00分

◎開会及び開議の宣告

- 議長（菊池 孝君） ただいまから令和元年第22回住田町議会定例会を開会します。
ただいまの出席議員は12人です。定足数に達していますので、会議は成立しました。
これから、本日の会議を開きます。
-

◎諸般の報告

- 議長（菊池 孝君） これから諸般の報告をします。

職員に朗読させます。

- 事務局長（松田英明君） 議会の諸般報告。

〔事務局長 松田英明君登壇・朗読〕

- 議長（菊池 孝君） 町長より、行政報告があれば発言を求めます。

町長、神田謙一君。

〔町長 神田謙一君登壇〕

- 町長（神田謙一君） 2件、報告をしたいと思います。

まず、1件目です。ふるさと住田会の集いの開催についてでございます。

去る5月18日、東京都内のホテルラングウッドにおいて、第17回ふるさと住田会の集いが開催されました。開催ごとに参加者の減少が課題となっていました。ファンテーブル同級会の開催など、役員の方々の新たな企画やご尽力により、前回開催より40名ほど多い、総勢約200名の参加者となりました。当日は、外館甚句の披露や早瀬ひとみさんのミニコンサートなどが行われ、盛会裏に終了することができました。

また、このたびの役員改選では、現役員全員が継続となりましたことをご報告いたします。

2点目は、住田分署の農林水産大臣賞受賞についてでございます。

このたび大船渡消防署住田分署が、第22回木材活用コンクールで農林水産大臣賞最優秀賞を受賞いたしました。このコンクールは、日本木材青壮年団体連合会の主催でありまして、木の伝統と文化を次世代へつなぐため、木の良さを生かした作品や、新しい木材の利用や見せ方・工法などを用いた、木材の新たな一歩を追求する作品を募集し、木材の普及と用途の

拡大に貢献する優秀な作品に対して表彰を行うものであり、第18回開催の当コンクールにおいても、住田町役場が最優秀賞を受賞しております。

また、本分署は平成30年度岩手木材利用優良施設コンクールにおいても、岩手県知事表彰を昨年12月に受賞しております。住田分署は、町内で生産された杉とカラマツの集成材を柱とはりに使用した、全国でも事例の少ない貫式ラーメン構造で、接合部には木製の込栓とくさびを使用し、金物を用いない伝統木造の技術が踏襲しております。また、床板には厚さ36ミリのCLTを使用しております。

このように、住田町役場と同様に対外的な評価が高いため、広く関心を集め視察者や見学者が多く訪れている現状にあります。本町では、森林・林業日本一のまちづくりを目指して取り組んでいるところでありますが、そのシンボルとして、今後も広く情報発信に努めてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（菊池 孝君） 教育委員会より、行政報告があれば発言を求めます。

○教育長（菊池 宏君） ありません。

○議長（菊池 孝君） 次に、本日までに受理した請願は、お手元に配りました請願等文書表のとおり、産業経済常任委員会並びに総務教民常任委員会に付託しましたので、報告いたします。

なお、岩手県国家公務関連労働組合共闘会議 議長 岩崎 保氏から提出された、国民の権利と安心・安全を守る公務・公共サービスの拡充を求める陳情書、並びに全国青年司法書士協議会 会長 半田久之氏から提出された、辺野古新基地建設の中止と、普天間基地の沖縄県外・国外移転の国民的議論により、民主主義及び憲法に基づき公正に解決するべきとする意見書採択を求める陳情、並びに一般社団法人日本沖縄政策研究フォーラム 理事長 中村 覚氏から提出された、日本政府に対して、国連の沖縄県民は先住民族の勧告の撤回を求める意見書の採択を求める陳情書、並びに宜野湾市民の安全な生活を守る会 会長 平安座 唯雄氏から提出された、米軍普天間飛行場の辺野古移設を促進する意見書に関する陳情については配付としましたので報告します。

これで、諸般の報告を終わります。

◎会議録署名議員の指名

○議長（菊池 孝君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、住田町議会会議規則第118条の規定によって、10番、高橋 靖君、11番、阿部祐一君を指名します。

◎会期の決定

○議長（菊池 孝君） 日程第2、会期の決定を議題にします。

お諮りします。

今定例会の会期は、本日から6月14日までの4日間としたいと思います。ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（菊池 孝君） 異議なしと認めます。

したがって、会期は本日から6月14日までの4日間に決定しました。

◎一般質問

○議長（菊池 孝君） 日程第3、一般質問を行います。

順番に発言を許します。

◇ 荻原 勝 君

○議長（菊池 孝君） 1番、荻原 勝君。

〔1番 荻原 勝君質問壇登壇〕

○1番（荻原 勝君） おはようございます。1番、荻原 勝です。

きょうもまた、先陣を切りまして、町長、当局に質問いたします。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、通告に従いまして大きく2点伺います。

大きな1点目です。1、次期住田町人口ビジョン、総合戦略、総合計画の策定について。

現在、令和2年度から始まる新しい住田町人口ビジョン、総合戦略、総合計画（以後、人口ビジョン等）を策定中であることから、次の点を伺います。

（1）住民アンケート調査における総合評価ともいえる、町の住みやすさに関する評価では、平成28年度は62.6%であったが、平成29年度が56.2%、平成30年度が50.6%となり、この2年で合計12ポイントも低下しています。そのことをどのように捉え、どう改善を図る考えでしょうか。

（2）住民アンケートにおいて、最も取り組むべきとされ、重要度が高く満足度の低いものとして、結婚を望んでいる方への応援等がありました。そのことを、現在策定中の人口ビジョン等にどのように位置づけ取り組んでいくのでしょうか。

（3）人口ビジョン等の構造は、国の指針である「まち・ひと・しごと」がベースになると思われませんが、町長のビジョンである「医・食・住」をどのように織り込んでいく考えでしょうか。

（4）人口ビジョン等の、2040年に4,000人の目標人口は見直されるのでしょうか。また、1年ごとの目標人口をどのように設定し、管理していくのでしょうか。

（5）人口ビジョン等に、町民の意見を一層反映させる工夫が必要だと思いますが、町民説明会の開催やパブリックコメントを実施する考えはないのでしょうか。また、新たな人口ビジョン等の策定スケジュールはどのようになっているのでしょうか。

大きな2点目です。2、町の広報・PR体制及び戦略について。

町の広報・PRの体制及び戦略は、今後、さらに重要性を増していくと思われることから、次の点を伺います。

（1）住田テレビの番組内容が縮減されていますが、その経緯はどうだったのでしょうか。また、この機会に人口減少を見据えた町の情報発信のあり方を考えるべきと思いますがどうでしょうか。

（2）先月、町内においてテレビドラマのロケが行われました。本町の魅力等を全国にPRするチャンスでもあり、よいことだと思いますが、住田テレビ等で町民が視聴できるような工夫ができないのでしょうか。

以上です。

○議長（菊池 孝君） 答弁を求めます。

町長、神田謙一君。

〔町長 神田謙一君登壇〕

○町長（神田謙一君） おはようございます。荻原議員のご質問にお答えをいたします。

最初に、大きく一つ目の（１）についてお答えをいたします。

住田町人口ビジョン、総合戦略、総合計画は平成27年度に策定し、昨年、事業評価のアンケートを実施しております。

議員ご質問のとおり、町の住みやすさに関するアンケート結果は、住みやすい、どちらかというと住みやすいと回答する割合が低くなる傾向にあります。

そのことを、どう捉えているかという点ではありますが、町の重要課題であります道路環境や交通の便、医療環境、買い物の便利さの満足度の傾向を見ますと、平成29年度は医療環境の満足度が、前年度に比べ1.9ポイント低下しております。この結果は、個人病院2院が閉院したことが要因となったと考えております。

平成30年度は、道路環境や交通の便が3.6ポイント、医療環境が0.5ポイント低下する結果となっている一方、買い物の便利さについては満足度が上昇する結果となり、ドラッグストアの町内出店が要因と考えられます。その他、子育てに関するもの、地域づくりについては満足度が高く、移住・定住、仕事づくり、結婚対策の満足度は低い傾向にあります。結婚対策は、若い世代の重要度は低く、年齢層が高い世代の重要度が高いなど、年代による意識の違いが出ている結果もあります。

このような結果を、どう改善を図る考えかという点ではありますが、施策の取り組み状況と満足度は、必ずしも比例しているものではないことから、住民ニーズや満足感と取り組んでいる施策のミスマッチを捉えることや、住民との目標の共有が必要と考えております。

また、町単独の取り組み成果で、住民満足度が得られる施策、町単独だけの取り組みだけでは満足が得られず時間を要する施策があり、道路環境や交通の便、医療環境などは時間を要するため、満足が得られていないと認識しています。

人それぞれの満足に限りはありませんので、今年度進めている次期総合計画策定作業の中で、各施策の目標と、その目標をどの程度まで、いつまでに実現するかを住民と共有し、理解を得ながら実効性のある計画づくりを進めてまいりたいと考えております。

さらには、その計画を住民の皆さんと一緒に実践していけるよう、機運を高めていきたいと考えておりますので、議員の皆様にもご理解とご協力を賜りますようお願いを申し上げます。

次に、（２）、（３）は関連がありますので、一括して答弁をさせていただきます。

次期総合計画については、現在まで計画の作業スケジュールや構成などについて、内部協議が終わったところです。

次期総合計画の構成は、基本的方向を「ひと・まち・しごと」、現計画の総合戦略に当たる部分を重要施策として「医・食・住」と位置づける予定であります。基本方向の三つのテーマと重要施策三つのテーマをそれぞれひもづけ、関連する施策も含めて一つの部会とし、三つの部会で協議・検討を進める予定であります。例として、基本方向のひと、重要施策の医療関係施策である結婚、子育て、教育、健康、福祉、介護が一つの部会となります。同じように、まちと住の部分は六つの施策、しごとと食は四つの施策とする予定であります。

結婚を望んでいる方への応援はどのように位置づけられるのかという点ではありますが、結婚、子育ては一体として施策を推進することが自然で効果的であるという結論に至り、先ほど申し上げましたとおり、基本方向のひと、重要施策の医関連施策、結婚、子育てとして位置づける予定であります。

次に、（４）についてであります。国立社会保障問題研究所などの人口推計に基づき、平成27年度に2040年に4,000人の目標人口を設定し、各種施策に取り組んでまいりました。しかしながら、人口減少の速度は緩やかにはなっていない実態であります。

このようなことを踏まえ、目標人口を設定することも必要なことではあります。どのような町の未来を描くのか、住田町らしい豊かな暮らしを享受するためにはどうしたらいいのかなどを、住民の皆様と話し合い具体化していく必要があると捉えていることから、目標人口の設定や目標人口の見直しについては、次期総合計画を策定する中で、住民の皆様の意見を伺ってまいりたいと考えております。

次に（５）、議員ご質問の、計画策定に住民の意見を反映させる工夫についてであります。先ほど総合計画の構成で答弁しましたとおり、「ひと・まち・しごと」、「医・食・住」の三つの部会として、行政内部では庁内ワーキングチームでの協議、住民意見の反映は総合計画推進委員会委員にその分野に精通した住民を委嘱し、前述の部会で協議をしていただく予定です。

このように、部会化した背景には、現計画の策定推進に当たって推進委員会の協議範囲が広く、議論が深まりにくいという課題があったことから、より議論が深まる体制づくりに工夫を加えたものであります。

また、6月17日から21日まで、町内5地区で住民との懇談会を開催いたします。町の現

状や課題、今後の見通しを説明し、住民皆様の意見を伺おうと考えているところです。パブリックコメントは実施する予定です。

住民説明会は計画策定後に開催する予定で、計画内容の共有、計画の実践と実現に住民のご理解、ご協力を得ようと考えております。

次に、策定スケジュールであります。五つの段階により、来年3月までに計画を策定する予定で進めてまいります。6月から第2段階に入り、基本理念の検討、7月下旬から第3段階として、目標、目標値の設定、9月から第4段階として、開発計画の検討、11月からは第5段階として、計画全体チェック、新年度予算反映作業となります。段階ごとに、庁内ワーキングチーム会議、庁内課長会議、計画策定推進委員会の開催、町議会、全員協議会への説明など、すき間のないスケジュールではありますが、住民、議員の皆様のご理解、ご協力を得ながら皆様の意見を反映し、より実効性のある計画策定に努めてまいりたいと考えているところであります。

次に、大きく二つ目、町の広報・PR体制及び戦略についてのご質問にお答えをいたします。

住田テレビは平成20年に開局し、ことしで12年目になります。議員ご質問のとおり、昨年、開局から10年が経過したことから、情報通信基盤施設整備事業の全体を見直し、その一環として自主放送制作番組、いわゆる住田テレビの番組内容を縮小したところであります。

その経緯として、開局当初の情報通信基盤施設事業全体の経費が約6,500万円から、平成25年度以降は1億から1億5,000万円に増加し、そのうち住田テレビ放送制作に係る委託費が760万円から3,700万円に増加している状況を踏まえ、情報通信基盤施設の運営の課題を整理し、課題解決に取り組まなければならない状況がありました。

人口減による視聴者数の減、使用料の減、さらに機器の老朽化に伴う修繕費増、機器更新による費用負担の増、光ケーブル張りかえ時期を見込んだ財源の確保、情報通信網の新たな活用など、縮小する地域の先を見据えたサービスのあり方を検討した結果、縮減したものであります。

情報通信基盤施設事業の運営について、今後の町のビジョンを明らかにするため、昨年度から情報通信基盤施設利活用検討委員会を立ち上げ、専門家の皆様のアドバイスをいただきながら、協議を進めているところであります。

次に、この機会に人口減少を見据えた町の情報発信のあり方を考えるべきではないかという点であります。今年度から情報発信の業務を企画財政課政策推進係に一元化し、効率的

な情報発信に取り組んでおります。役場庁舎1階の交流プラザの掲示物、回覧、配布文書、すみだ広報、住田テレビ静止画告知放送、住田テレビの番組、ホームページ、フェイスブック、それぞれの情報発信ツールの特性を理解し、誰に伝えるのか、何を伝えるのか、わかりやすくどのように伝えるのかなどを整理し、日々工夫しながら進めているところであります。人口減少に伴い、限られた予算、限られた人員の中でどこまでやるのかという目標を定めながら、効率的な情報発信に努めてまいりたいと考えているところであります。

最後に、先般行われた町内でのロケのテレビドラマを、住田テレビで視聴をとのご質問ですが、議員ご質問のテレビドラマのロケについては、有料衛星放送の連続ドラマで、東京と東北を舞台に、東日本大震災も含めた過酷な運命を背負った男女のラブストーリーと捉えております。

町内のロケ地は住民交流拠点施設まち家世田米駅、昭和橋、松日橋、上有住の民家等と伺っており、本町がロケ地に選定された背景には、ドラマ制作関係者が岩手県内で訪れたことのある町の一つだったとも聞き及んでおります。このような機会を得られたことは、主演俳優が訪れた聖地としてファンが訪れるなどの交流人口の拡大や、町のPRになると大いに期待をしております。

住田テレビ等での、住民が視聴できる工夫はできないものかというご質問でございますが、テレビ、映画等映像媒体にはそれぞれ著作権がございます。町内で放送するためには、映像権を購入するなど多額の費用が発生すると想定されますので、考えてはございません。

以上です。

○議長（菊池 孝君） 再質問を許します。

1番 荻原 勝君。

○1番（荻原 勝君） 1の人口ビジョンの（1）の町の住みやすさについてから行きます。

私もこの項目を出したのは、町政とか町長を批判するために出したとかそういうことではなくて、町長も2年目で私も2年目ですけども、2年目だから、こういうふうには1年目、2年目と下がっていくということはある程度だと思っております。それに対して、2年間ですけども町長はいろんな手を打っているということも評価したいと思っております。

例えば、医療については訪問看護のすみちゃんをつくったり、それから、交通に関してはコミュニティバス、これは住田病院から役場に来るようになっていたり、そういうふうになって、これからこの住みやすさについては、改善していく方向にあるんじゃないかなというふうに私は推測しております。

ただ、そのときに、訪問看護のすみちゃんとか、それからコミュニティバス、これはできたんですけども、できたからいいっていうものではありませんので、半年、まだたっていない事業ですけども、本当に住みやすさの改善とか医療・交通の改善に役立ってきたのかなということ、まあ二、三カ月のことなんですけども、ちょっとその利用状況について伺っておきたいなと思います。

コミュニティバス、それから訪問看護すみちゃんについて利用状況は、ここ2カ月、3カ月ですけども、どうなのかなというのを伺っておきます。

○議長（菊池 孝君） 町民生活課長、梶原ユカリ君。

○町民生活課長（梶原ユカリ君） 私からは、コミュニティバスの利用状況ということでお答えしたいと思います。

コミュニティバスの川口上有住駅線、八日町遠野駅線、2路線ありますけれども、利用状況につきましては、やや微減ということになっております。

平成29年度におきましては、上有住の個人病院が閉院されたということもあって減少率が、利用者率が、やや大きく下がったというところであります。

それで、平成31年4月からは、先ほど議員おっしゃられたとおり、住田町役場のバス停を設置したというところと、あとは下有住地区から診療センター、役場まで直通にバスを走らせたというふうな利便性の向上に努めてきたところであります。

現在3カ月の利用状況というところですが、5月は連休もありましたので、まだ、乗降調査を行っておりませんが、今後、乗降調査を行いながら現状の把握、それから、それをもとにした改善等に努めてまいりたいと考えています。

○議長（菊池 孝君） 保健福祉課長、佐々木光彦君。

○保健福祉課長（佐々木光彦君） 私のほうからは、未来かなえ訪問看護ステーションすみちゃんの件についてお答えをしたいと思います。

訪問看護ステーションすみちゃんは、4月1日から開所となりまして、まだ2カ月ぐらいしか経過をしておりますけども、これまでのところの利用状況ということですけども、4月が5人利用、それから6月10日、きのう現在ですけども12人、現在利用中ということで承っております。

始まったばかりでございますので、さまざまな課題等がございます。例えば利用者をふやしていかなければいけないですとか、収支の状況も考えていかなければいけないというような課題等がございますので、未来かなえ機構、それから訪問看護ステーションすみちゃんの

看護師、それから私ども保健福祉課の3者で意見交換をしながら課題を、情報共有しながら今後、町民の皆さんに周知をしていただきながら、利用者がふえていくように、認知度を高めて、信頼度をアップしていくようにというようなことで、検討の会議を月1回ずつ設けていくということにしておりますので、そのような中で意見交換をしながら、円滑な事業運営ができていくようにということで支援をしていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（菊池 孝君） 荻原 勝君。

○1番（荻原 勝君） それから、今、言ったのは、住みやすさにいろいろ影響を与える身近な3項目、医療、道路・交通、買い物の便利さについて伺ったんですけども、そのほかに、先ほど町長からも結婚・出産・子育てとか地域づくり、移住・定住、仕事づくりなんかについて満足度、重要度というのもアンケートでやっております。

私、これ見たんですけど、一番初めにやり始めたころよりもすごくすっきりして、記入しやすく回答しやすくなっているんですけども、身近なものと、それからその次の結婚から仕事づくりまでのものと、大体2つに分かれてるんですけども、その何というんですかね、オープンアンサーというか、そういうものについてずっと読み込みますと、例えば結婚・出産・子育てとか地域づくり、移住・定住、仕事づくりについてのオープンアンサーというのは余り、何というんですかね、意見が出てないということで、もう少し不満やアイデアが表出しやすいような誘導型の自由回答をつけ足すとか、そういうことが必要になってくるのかなというようなことも、ちょっと感じたんですけどもいかがでしょうか。

○議長（菊池 孝君） 企画財政課長、横澤則子君。

○企画財政課長（横澤則子君） アンケートに関しましては、今、議員ご説明いただいたとおりなんですけれども、アンケートの最終に、必ず自由記載なんていうものを設けてございます。

誘導型のオープンアンサーというのは、なかなかこちらのほうからするというのは難しい部分がありますけれども、住民の意見をなるべくとといいますか、自由記載の部分の意見も私たちも読み込んで、トータルの結果とすり合わせて、事業を進めていきたいというふうには考えております。

○議長（菊池 孝君） 荻原 勝君。

○1番（荻原 勝君） 誘導型の自由回答というのは、例えば結婚・出産・子育てのところにオープンアンサーをつけるとすれば、このままでは住田町も日本も人口が激減しますとか、

そういうふう一言入れてから、それについてどうですかとか、そういうふうにするというように感じでは考えたんですけど、それはそういうことでいいと思います。

では、次に行きます。次というか、この（１）の続きですけども、この住民アンケートですね、回収率というのがあります。回収率が平成28年度が32.2%、平成29年度が35.9%、平成30年度が30.8%で、前年度比マイナス5.1ポイントということです。

これは、同様の調査をしている陸前高田市の平成29年度が44.8%、平成30年度が35.4%、大船渡市の平成29年度が48.8%、平成30年度が47.8%などと比べて、大変低いのではないかと思います。

なぜ低いんでしょうか。また、それは住みやすさのマイナス12.0ポイントに影響を与えているのではないのでしょうか。

○議長（菊池 孝君） 企画財政課長、横澤則子君。

○企画財政課長（横澤則子君） アンケートの回収率については、今、議員にご説明していただいたとおりであります。平成30年度のアンケートに関しましては、前年度に比べまして、住生活に関することを盛り込み実施をしましたので、アンケートの項目が多かったというのも影響しているのかなというふうに、要因として捉えてございます。

大船渡市、陸前高田市さんに比べて、アンケートの回収率が低いのはなぜかというところの、これだという限定するような背景の資料は持ち合わせてはおりませんが、日ごろから、どちらかという住田町の方々は結といいますか、ともに生きるというような集落の中で生きてきたという価値観がございまして、なかなか自分で意見をどんどん主張するというタイプの住民性ではないかなというところ、地域づくりの中でも感じているところでもあります。

また、高齢者、高齢化率が陸前高田市、ほかの都市に比べても高うございますので、やはり文書配布、あるいはアンケート用紙に書くというのが難しくなっているのも、ヒアリングにしてくれというような声も届く場面がございまして、そのようなことが影響しているのではないかなというふうに推察しております。

○議長（菊池 孝君） 荻原 勝君。

○1番（荻原 勝君） この、今年というか平成30年度ですね、昨年やったアンケートの回収率が低かったというのは、今、言われましたように、調査票が毎年4ページ、5ページぐらいだったのが、今回、住生活のアンケートを6ページ足したと、10ページになったというように。それから、普段より少し遅れて年末に配布したということですね。そういう

ことで、いろいろと回収率が低下したのではないかというふうに、私は見ております。

それから、お年寄りが多いのでというようなお話もありましたけども、それについては12月28日に配布して、帰省の若者対策でもあるというようなお話もいただけてますけども、よく報告書を見ますと、18歳から27歳までの方々の回収率も余り高くないというようなことも、ちょっと指摘しておきたいと思います。

それでは、今後、回収率を改善していく方策はあるのでしょうか。その辺をもう一度、改めて伺いたいと思います。

○議長（菊池 孝君） 企画財政課長、横澤則子君。

○企画財政課長（横澤則子君） 今回、平成30年度につきましては、若者といいますかSNSを利用している方も対象にということで、回収率を上げるためにインターネット上での回答をする方策もとってみましたけれども、1回目ということもありますが、それほど回収率には反映されるような効果がなかったというような実態もございます。

回収率をどう上げていくのかと、非常にこちらとしても悩ましいところではございますけれども、簡単なアンケートにし過ぎれば、内容に深みがなくなるということもありますし、こちらが求める回答を求めれば、たくさんの資料になって回収率が下がるということもありますので、いろいろこれという、今、策を持ち合わせておりませんが、機会を捉えて皆さんに、アンケートの回収率を高める方策等について意見を求めてまいりながら、次の改善に努めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（菊池 孝君） 荻原 勝君。

○1番（荻原 勝君） 私は、先ほど言われましたようにヒアリングの要望があったというようなこともあります。私は、調査方法を、郵送自記入式から対面式ヒアリング式に切りかえることも、一つ考えられるのかなということです。それから、もう一つは、今年ちょっと年末にやってしまったんで、やっぱり少し早目にということもあるのかなというふうに思います。

それから、もう一つ、私、思うんですけども、これ、対象年齢が18歳から72歳というふうになっておりますけども、人生100年時代というようなことがありますんで、もう少し、例えばすぐに80歳まで上げるとかそういうふうに考えなくても、例えば72歳から75歳へ引き上げるとか、そういうことは考えられるんじゃないかなと思いますが、どうでしょうか。

○議長（菊池 孝君） 企画財政課長、横澤則子君。

○企画財政課長（横澤則子君） アンケートの対象年齢につきましては、総合戦略最初の計画

のときには50歳以下の全住民ということで、未来志向型の意見を反映しようということでアンケートを行ってございましたけれども、地域の高齢者も多いということで、72歳まで引き上げて、毎年事業評価をしてきたところでもあります。人生100年時代ということで、年齢を上げてはどうかということについては、検討させていただきたいなというふうに思います。

また、先ほどのヒアリングの件につきましても、例えば小さな拠点づくりなどで、住民の意見を吸い上げるなどと、今ある仕組みの中で、効率的に意見を吸い上げる方法などを検討できればいいかなというふうに捉えているところでもあります。

○議長（菊池 孝君） 荻原 勝君。

○1番（荻原 勝君） この（1）の最後の質問になります。

この調査なんですけども、実は、昨年度やった一番新しい調査ですけども、新しいことを二つやっております。それは、一つは先ほど言われましたインターネットの回答を入れたということ。もう一つは事前にナンバリング、がちゃんがちゃん押して番号を振るんですね。または手書きかもしれませんが、その事前ナンバリングをしたということがありまして、そういう前提があるのかもしれませんが、今年2月に広報に出したばかりのアンケートの原票を処分してしまったというのは本当でしょうか。

○議長（菊池 孝君） 企画財政課長、横澤則子君。

○企画財政課長（横澤則子君） 全てのデータをパソコン上に入力済みということで、処分をしたというふうに思います。

○議長（菊池 孝君） 荻原 勝君。

○1番（荻原 勝君） 私は、それについてはちょっと同意しかねるところもあります。原票は、ある期間保管すべきだと思います。それについては、強く指摘しておきたいと思います。それでは、（2）に移りたいと思います。

結婚を望んでいる方への応援等ですね、これ一番初めの質問としては、結婚・子育て、一緒にやっっていこうかなみたいなお話があったと思うんですけども、昨年2月の町広報で、結婚への支援という項目だったんです。それが、今年2月の町の広報では、結婚を望んでいる方への応援となっています。支援から応援、後退ではないでしょうか。

また、他の項目は皆、支援というふうに書いてあるんですけども、結婚だけが応援となっています。どういうことなのかなということを、ちょっと教えていただきたいんですが。

○議長（菊池 孝君） 企画財政課長、横澤則子君。

○企画財政課長（横澤則子君） 結婚が、結婚支援から結婚応援は後退ではないかというよう

なご質問でございますけれども、そういう意識での表現を変えたということではありません。単純にといいますか、応援をするという表現のほうが、結婚に対する言葉として、やわらかく受け取りやすいかなというような意味合いでの言葉の変更という意味合いで、施策が後退するというような表現をしたものではございません。

○議長（菊池 孝君） 荻原 勝君。

○1番（荻原 勝君） それから、先ほど結婚と子育てというようなことを一緒にしてというような感じで、町では新しい人口ビジョンの項目から、結婚応援をなくして、何かライフサイクル的なものに包摂してしまうという考えなんですか。その辺を、ちょっと伺いたいと思います。

○議長（菊池 孝君） 企画財政課長、横澤則子君。

○企画財政課長（横澤則子君） 結婚の施策を縮小しようということではなくて、より効率的に効果的に施策を展開していくための仕組みとといいますか、をどうしていくかというふう考えたときに、結婚・子育てというふうな流れの中で進めるのが自然であろうというふうな考え方に基づいたものでございます。

結婚というものは、それぞれ自分が選択をしてするものでございますので、行政のほうから積極的にしなければならないというような雰囲気というよりは、自然の流れの中で、結婚をしたいと希望している方への応援をしていこうという考え方に基づいたものでございます。

○議長（菊池 孝君） 荻原 勝君。

○1番（荻原 勝君） 今、言われたことについては、ちょっと後ほど、また質問したいと思うんですけども、もう一つ、ちょっと気になることがあるんで質問します。

何ていうんですか、一部に、結婚なんて福祉や介護ほど日本国憲法に直結しないというような、一部識者の意見もあるようなんですけども、町は、その辺のことはどう考えているんでしょうか。

○議長（菊池 孝君） 企画財政課長、横澤則子君。

○企画財政課長（横澤則子君） 町は、どう考えているか。結婚施策を今、推進しているわけですけども、施策によって優先順位をつけるというのはあろうかと思いますが、今、荻原議員さんがおっしゃったように、そういう比較の中で何かをというような考え方を、強く持っているものではございません。

○議長（菊池 孝君） 荻原 勝君。

○1番（荻原 勝君） 明確に優先順位をつけるようなものではないということを伺って、安

心いたしました。

それでは、次の質問に行かせていただきます。

世の中、私が考えるにですよ、世の中、若い女性とお金持ちの男性は、支援しなくても結婚ができるんじゃないかと思います。それなのに、町は若い女性の優遇を推進しているように見えます。それでは、独身の方々がかわいそう過ぎるのではないのでしょうか。特に、余り言いたくないんですけども、特に生涯未婚率が高い男性は、特にかわいそうなんじゃないかなというふうに思うんですけども、いかがでしょうか。

○議長（菊池 孝君） 企画財政課長、横澤則子君。

○企画財政課長（横澤則子君） それについて、かわいそうかどうかということ、私が申し上げるべきではないのではないかなというふうに思います。

○議長（菊池 孝君） 荻原 勝君。

○1番（荻原 勝君） 何ていうんですか、おもしろおかしく質問したつもりはないんですけども、よく答弁の中で、結婚と言えば、町の独身の方々が拒否反応をするというようなお話をよくされます。

しかし、私が思うにそういうのは、最近言われている受援力、援助を受ける力が低下しているからなんじゃないかというふうに思うんです。本当は結婚したいと思っているのに、つい自分から、自己責任とか言ってしまうと。で、反発すると。そのくせ、何というか、一人ではなかなか適正化できないという人が多いんじゃないかと思うんです。

何が聞きたいかといいますと、町では、今までに適齢の独身町民1人当たり、何回アプローチしてきたんでしょうか。どうですか、どうですかって、何回アプローチしてきたんですか。待っていただけなんじゃないですか。

○議長（菊池 孝君） 企画財政課長、横澤則子君。

○企画財政課長（横澤則子君） 住田町の結婚施策につきましては、以前にもご答弁させていただいた経緯がございますけれども、平成19年から11年にわたって結婚相談員を設置して、結婚を希望する方の家族、本人、周囲の方のサポートをしてきたところであります。

現在、11年の経過を経て、また結婚の相談をしにくる方がいなくなっている状況がありましたし、出会いのマッチングイベントなども、きめ細やかに声をかけてしてきましたけれども、それを望む方の数が少なくなったということ。それから、そういう出会いイベント、あるいは相談という部分について、町外の方からのアプローチが多くなってきたという状況も踏まえて、一旦、結婚支援につきましては一定の成果を得たということで、結婚相談員制

度を中止したところであります。その後、岩手iーサポ、あるいは県内のいろいろなイベントの情報については、必要に応じて、結婚を希望される御家族や本人に情報提供をしてきたところであります。

議員おっしゃるとおり、独身者にどれだけアプローチしたかという部分につきましては、結婚相談員さんの制度があったときには、各ご家庭に訪問するなりいろいろサポートをさせていただいてきた経緯がございますし、ただ一つ、行政の施策として、待っているだけではないかという点でございますけれども、どなたが独身で、どなたが既婚でという情報は、小さな町だからわかるから、できるだろうというふうにお考えなのかもしれませんけれども、そこは、そんなになかなかプライバシーの問題もありますし、個人情報もありますので、こちらから個々に向かっていくというのは、なかなか難しい環境にあるかなというふうに思います。

それから、人口が縮小してやりやすいだろうとか、見えるからやれるだろうという考えもあるかと思っておりますけれども、従来から、若者の方々に結婚というと、なかなかいい反応が得られないというふうに答弁してきたのも事実でございます。今後は、町単独で解決できる施策ではないというふうに捉えておりますので、広域の中で、あるいは全県下の中での結婚支援策と一緒にしながら、施策を推進していくのが効果的であろうというふうに考えているところであります。

○議長（菊池 孝君） 荻原 勝君。

○1番（荻原 勝君） 今度のアンケートによれば、結婚応援について重要だと考える人は59.6%。それを満足だと考えている人は9.2%です。つまり、差し引き50.4%の町民が、結婚への応援が足りないのではないかと考えているんだと思います。または、感じているんだと思います。そういう捉え方もできると思うんですが、どうでしょうか。

○議長（菊池 孝君） 企画財政課長、横澤則子君。

○企画財政課長（横澤則子君） 先ほど町長の答弁の内容にもございましたけれども、結婚施策のその重要度と満足度につきましては、年齢が高くなるほど、親世代になるほど重要だし、満足度も低いという傾向がありまして、若い世代はそれほど重要度も高くなく、満足度もそれほど低くないというような、年代によつての意識の差がございます。親御さん世代、家族の方は、独身の家族を持っていらっしゃる方はすごく心配だし、もっとやってほしいという反面、当事者たちは余り、自分で決めるからというような意識があるのではないかなというふうに捉えてございます。

アンケートの結婚の全体を見れば、そのような結果でございますけれども、内部、中身を詳細に見ていくと、そのような状況もありますので、そこは当事者、本人の気持ちに寄り添った施策を推進してまいりたいなというふうに思っております。

○議長（菊池 孝君） 荻原 勝君。

○1番（荻原 勝君） 私は、今までにi-サポ岩手の会員登録料の支援とか、少子化緊急事態宣言を出したらとか提案してきました。きょう、次期人口ビジョンの策定を控えておりますので、思い切って4項目提案したいと思います。

①役場内に結婚応援の専門部署、係をつくったらどうでしょうか。

②住高支援の教育コーディネーターのような、プロの結婚応援のコーディネーターを、町の予算で雇ったらどうでしょうか。ちなみに、i-サポ岩手の会員が2,000人から1,000人に減っているということです。それであるならば、その反省点やノウハウ、人材を獲得するチャンスではないでしょうか。

③住田町の自立方針を堅持しつつ、これから始まる大船渡市との定住自立圏構想の中で、結婚応援をテーマにしていったらどうでしょうか。

それから④として、今度のアンケートで、未・既婚のレーダーチャートですね、これ比較しますと、既婚者は出産、保育園、子供の医療で満足度が高く、未婚者は住宅の新築・リフォーム、空き家で重要度が高いという傾向を示しております。これは、未婚者の自立願望のあらわれではないかと思えます。そこから発想をして、何かアプローチ、応援できないかなというのを思いました。どうでしょうか。

○議長（菊池 孝君） 企画財政課長、横澤則子君。

○企画財政課長（横澤則子君） 4点のご提案ありがとうございます。

結婚応援の部署、あるいはコーディネーターという部分につきましては、今、策定中の次期総合計画の中で、住民の意見を聞きながら、今後検討してまいることかなというふうに思っております。

それから、定住自立圏の件につきましては、既に、大船渡市と連携できる事業として、結婚応援策というのが項目として挙がっておりますので、今後、大船渡市と協議をしながら、連携が進められればなというふうに考えているところであります。

最後、4点目につきましても、このあたりにつきましては、アンケートの結果で未婚者の住宅新築・リフォームに対する支援の重要度が高く、満足度が低いという部分につきましては、住宅新築・リフォームに対する支援も行っておりますのでPRも含めた形、あるいは今

回の次期総合戦略の中で住民の意見を聞きながら、内容を反映できるかどうかというところで検討を進めていくことになろうかというふうに考えております。

○議長（菊池 孝君） ここで、1番、荻原 勝君の再質問を保留し、暫時休憩します。

休憩 午前11時00分

再開 午前11時10分

○議長（菊池 孝君） 再開します。

休憩前に保留いたしました1番、荻原 勝君の再質問を許します。

荻原 勝君。

○1番（荻原 勝君） それでは、（3）に行きます。

（3）についてなんですが、町長の医・食・住の食、食べるほうの食事ですね、それが、今度の人口ビジョンの組み立ての中で、職業の職に変わるなんていうような話をちらっと聞いたんですけども、それは本当なんですか。

○議長（菊池 孝君） 企画財政課長、横澤則子君。

○企画財政課長（横澤則子君） 食は、食べる食が変わっておりません。変わりありません。

○議長（菊池 孝君） 荻原 勝君。

○1番（荻原 勝君） それから、（4）に行きます。

目標人口についてですけども、私、これすごく悩みまして、いろいろ考えに考えて一番、今回の中で考えたところでした。いろいろ考えまして、結局、何ていうんですか、短期目標がクリアできて長期目標がクリアできないというのはどういうことだろうというようなことを、ずっと考えたんですけども、やっぱりずっと資料を見てみますと、今の程度でやっていけば、2040年に4,000人はクリアできるのではないかと。よく考えれば、これから約20年で約1,500人減るといいますから、割と大丈夫なのかなというふうに、最終的には思い至ったんですけどどうなんでしょうか。

○議長（菊池 孝君） 企画財政課長、横澤則子君。

○企画財政課長（横澤則子君） 2040年の4,000人を達成できる状況と捉えてるかどうかというご質問でよろしいでしょうか。

国立社会保障問題研究会の人口推計を見ますと、1年半後の2020年の社人研の人口より

は、まだ減少があそこまで行っていないという状況があります。

この先2040年までの、あと20年の中でどうかというところを、どう思っているかというところなんでしょうけれども、やはり今回の次期総合計画の策定以降の取り組み状況次第というふうには思います。今ここで大丈夫だという話も、ちょっとなかなかしがたいところもありますので、いずれ社人研の推計よりは少なくはなっておりませんので、2040年4,000人の目標値が全く達成できませんよという状況でもないというふうには捉えております。

○議長（菊池 孝君） 荻原 勝君。

○1番（荻原 勝君） 今の、全くそういうことではないというふうに捉えているというところが大事なのかなというふうに思います。

ただし、人口ビジョンの1年ごとの目標人口と実績値の差が、年々縮まってきているということもあります。平成26年には203人だったのが、平成29年には83人、平成30年には36人にまで縮まっています。今後は、1年ごとの短期目標にも注目していく必要があると思いますが、どうでしょうか。

○議長（菊池 孝君） 企画財政課長、横澤則子君。

○企画財政課長（横澤則子君） 議員おっしゃるとおりだというふうに思います。現に今でも1年間、あるいは年の半年単位で人口減少の推移、あとはその内容の分析をしている状況でございます。

2040年・4,000人というのは、今、4,000人というのは、いわゆる定住人口といえますか、そこに居住する人口というふうに捉えておりますけれども、今後については定住ありきなのか、あるいは交流人口、関係人口も含めてというような発想になるのかは、今度の次期総合計画の住民との意見交換の中で検討しなければならないところだと思いますし、人口のその目標値の設定も、先ほど町長が答弁したとおり、目標として設定するのかどうかというのも、住民の皆様と一緒に検討してまいりたいというふうに考えているところであります。

○議長（菊池 孝君） 荻原 勝君。

○1番（荻原 勝君） それでは、（5）についてです。

（5）の中で、今度、住民懇談会というか説明会というかがあるんですが、役場の方の人口ビジョン等の説明の後、住民側が質問する時間を設けるのでしょうか。また、もし設けたら、その質問内容は人口ビジョンなので、町政全般ということでもいいのでしょうか。

○議長（菊池 孝君） 企画財政課長、横澤則子君。

○企画財政課長（横澤則子君） 住民懇談会の説明内容につきましては、企画財政課のほうか

ら人口の推移や財政の状況、人口減によって心配される課題などについて説明をさせていただいた後、各課長から各課の課題、あるいは住民の皆様には協力いただきたいことを説明した後、町民の皆さんの質問の時間を設ける予定でございます。質問の内容については、説明事項の全般でもよろしいですし、常日ごろから聞きたいなと思っていることでも構わないというふうに捉えております。

○議長（菊池 孝君） 荻原 勝君。

○1番（荻原 勝君） それでは、2の町の広報・PRについて伺います。

時間も余りありませんので、1点だけ伺います。（1）の広報についてのほうを伺いたいと思います。

住田町には、住田テレビもあって、恵まれているのではないかと思います。世の中を見ると、小さいところはそれなりにやっているんだと思います。私は、防災すみた広報のような、防災無線を有効活用した広報も、原始的かもしれませんが、住民に伝わりやすいように感じています。何か、今度の説明会でも何でもそうですけども、最後の一押しの際にいいんじゃないかなというふうに思いますがどうでしょうか。

○議長（菊池 孝君） 総務課長、熊谷公男君。

○総務課長（熊谷公男君） 防災行政無線でさまざまな広報をとというようなご提案でございました。

議員おっしゃいますとおり、一つの周知の方法としては、そのとおり活用すべきものというふうに考えております。現在につきましては、主に緊急の事案等の放送に、主に使わせていただいているという状況でありますし、今回の住民懇とかそういった部分につきましては、さまざまテレビとか広報とかそういった部分での周知にさせていただいているという状況であります。

以上であります。

○議長（菊池 孝君） これで、1番、荻原 勝君の質問を終わります。

◇ 瀧 本 正 徳 君

○議長（菊池 孝君） 次に、4番、瀧本正徳君。

[4番 瀧本正徳君質問壇登壇]

○4番（瀧本正徳君） 4番の瀧本正徳であります。

人々が清らかな心で美しくまとまる、なおるといふ令和の御代が始まりました。まずは、この新しい国、令和の御代のスタートをみんなで祝い、すがすがしく心引き締めたいと思っております。改めて、初心・原点を大切にしながら、町・町民の幸せ実現のため、議会議員活動に大所高所、寛厳の心を持って努めていきたいと思っております。

それでは、通告に従いまして町長及び教育長に、大きく2点について伺います。

初めに、町長の施政方針演説、まちの項目の生活環境対策の推進についてでございます。

中心地域活性化プロジェクトの推進と観光・生活環境整備の観点から、次の二つについて伺います。

(1) については、国道道路改良工事が間もなく完成します。ちょっと狭くなってしまいましたが、世小の森公園は忠魂碑周辺も含めて整備を進めるべきと思うがどうでしょうか。

(2) 平成30年度、来訪者3万人という報道もありましたが、まち家世田米駅への多くの来訪者を大切にしたいと思います。来町者、観光振興対応の観点からも、いつでも誰でも利用できる、住田らしい快適な公衆トイレの設置と周辺の整備は急務であると思うがどうでしょうか、伺います。

大きな二つ目でございます。何度も話になっていますが、人生100年時代に向けての施策推進についてであります。

超長寿時代、人生100年時代構想について、国では生産性革命、人づくり革命などさまざまな観点から施策の提案、そしてマスコミ報道が繰り返されております。

そこで、町施策としては、共生の地域づくり・社会参加体制・生活意欲向上・健康推進策などが要点の一つとなると思います。人生100年時代への町民の希望と期待、そして不安への対応はリーダーの責務であり、住田町の将来を見据えた政策を、誰もが自分ごととわかるように優しく示し、町民とともに進めるべきであります。次の2点について伺います。

(1) 人と人・地域・社会とつながりながら楽しくずっとこの町で暮らす。

ともに支え合う地域づくりのため、悉皆、いわゆる特定な人でなく、ことごとくみんなという意味でございますが、悉皆を意識した社会参加策、共生の地域づくりの策を進めたいと思っております。常に町と関係者含めて、多角的に精力的な取り組みがなされておりますが、より一層進めるべき時だと思います。そのためには、各種自主組織などの育成と活性化も一つの要素と思っておりますが、人生100年時代への、この町としての展望を伺います。

(2) 人生100年時代、超長寿社会、高齢化とともに当然起こる大きな課題の一つでもあ

ります、認知症予防策は健康寿命延伸策と連動すると思います。これは、いろんな意味で町の将来を左右する大きな課題でもあります。住民満足度や社会保障経費などの財政的観点からも、急ぎ対応を進めるべきであります。住田らしい認知症予防策のさらなる推進を、高齢者区分の見直しを含め一層強く、優しく図るべきであると思うがどうでしょうか。

以上、1回目の質問を終わります。

○議長（菊池 孝君） 答弁を求めます。

町長、神田謙一君。

〔町長 神田謙一君登壇〕

○町長（神田謙一君） 瀧本議員のご質問にお答えをいたします。

大きく1項目めの1点目、世小の森公園の整備の件についてお答えをいたします。

世小の森公園は、地域の方々が主体的に整備をし、大切に維持管理してきた公園であると認識しております。

今般の国道改良工事、送電線仮設工事に当たり、この世小の森公園を通過するルートに対しまして、地域の方々、地権者の方々のご理解とご協力のもと工事が進められてきたことに感謝を申し上げるところでございます。

国道340号山谷工区につきましては、既に供用されておりますし、東北電力の送電線鉄塔工事及び附帯工事につきましては、全工程の完了は当初9月中旬ごろとのことでしたが、今月中に手続も含めて完了するとのことであり、間もなく住民の方々が利用できるようになるものと捉えております。

議員ご質問の、世小の森公園の整備であります。現在、世小の森公園についての整備計画はございません。現時点では、工事後の現地周辺の状況を確認しながらという段階であると考えております。

次に、2点目、公衆トイレについてのご質問ですが、中心地域活性化構想は、人口減少や高齢化などの社会環境の変化に伴う本町の中心地域が衰退する一方で、中心地域には町内外に誇れる文化的・歴史的資産やすぐれた景観・人材など、多くの地域資源が現存していることから、それらの魅力を生かしたまちづくりを進めるとともに、交流人口の拡大や定住人口の増加による経済効果を図るため、中心地域の活性化に向けた基本的な事項を定めたものであります。

構想の位置づけとして、住田町総合計画及び過疎地域自立促進計画、並びに住田町総合戦略との整合性を図りながら、中心地域の活性化を図るための指針とするもので、構想期間は

平成23年度から平成31年度までであります。

住民交流拠点施設まち家世田米駅は、中心地域のにぎわいを創出する拠点として整備され、指定管理者制度による民間事業者の管理運営で、交流人口拡大を図ってきているところです。その来訪者については、開業から2年で5万人を超えるなど、整備の趣旨に沿った取り組みがなされていることは、皆様ご承知のとおりであります。

また、去年は駐車場を舗装し、車で来訪される方々が安全に駐車できるよう整備をしたところでもあります。

議員ご質問のトイレの整備については、駐車場整備の際にもご質問をいただいた経緯がありますが、トイレは清潔に保つことが施設や町の印象につながることから、その管理体制と費用対効果を見きわめていく必要があります。今年度、進めております次期総合計画策定の中で検討を進めるとともに、策定された次期総合計画と整合しながら、中心地域活性化構想の見直し作業を来年度、進める予定であります。

次に、大きく二つ目、人生100年時代への展望というご質問にお答えをいたします。

ご承知のとおり、住田町は昭和30年の合併以来、人口増化対策を講じながら行政運営を進めてまいりましたが、合併以降、毎年200人強、現在も毎年100人余りが減少し、今後も減少すると捉えております。地域が縮小される中で課題を解決し、持続可能な地域づくりを進めることが責務であると認識をしております。

人類が、この地球上で生存し続けてこられたのは、共生という必要性、知恵から今日につながっているとも言われております。過去に経験のない社会構造の中ですが、その環境を整えるには大きく住民の主体的な意識、広域的な視点での地域経営なり、例えばA IやI C Tなどを活用し、人口減少や脆弱な労働力を補完できる環境整備など、いずれ高齢者から次世代までが、ここで暮らしていこうと思う環境を整えていく必要があると捉えております。

住民の主体的な意識については、平成29年度の総合戦略等の事業評価のためのアンケートから、満足度向上のために住民の皆さんができることは何かという設問を加えており、道路の清掃や自分の健康管理、検診受診、町内の商店の利用などの回答が多くあります。このような機会や各課の取り組みの中で、住民の皆様は地域へ目を向けていただき、自分にできることは何かを考えていただくことで、社会参加のきっかけにつなげてまいりたいと考えております。

また、縮小する地域が単独で解決できる課題は、そう多くはありません。町内の各地域の連携、気仙広域、沿岸広域、県内など広域での連携をより密にしながら課題を解決し、地域

の生活機能の維持、住民サービスの維持・向上に努める必要があると考えております。

さらに、今後の人口減、労働力減は避けられず、それらをカバーするためには、本町の強みである光ケーブルを活用し、都市と地方をつなぐ、あるいは広い圏域でサービスを楽しむなどの環境整備も視野に入れていかなければならないと考えております。

都市と地方をかきまぜるという言葉で表現する方がいらっしゃいますが、これからの時代は、定住人口がふえることはもちろん期待するところですが、二地域居住やサテライトオフィスなど、都市と地方を行ったり来たりする多様な生活、多様な仕事の仕方を地域が受け入れにぎわいを生むことで、住民の希望や期待や不安解消へつなげるということも考えられます。

現在は、自由主義、民主主義、資本主義等あらゆる主義が混在している中で、経済も無視できないわけですが、今まで培われてきた文化を進化させ、あらゆる人が心一つになり支え合い、物欲ではなく、ともに楽しく幸せ感を分かち合い暮らせる、人生100年時代のまちづくりを進めていく必要があると考えております。

次に、2点目の認知症予防策の推進についてお答えします。

住田らしい認知症予防策を推進することの重要性については、瀧本議員と考えをともにするところです。

本町では、認知症予防のための集いの場として、社会福祉協議会が中心となって認知症カフェが運営されております。中心型カフェは町内3カ所、地域型カフェは15カ所開設されており、認知症予防だけでなく、認知症知識の普及啓発や、認知症になっても安心していられる居場所づくりの場として活発に活動されております。

また、高齢者が住みなれた地域で生きがいを持って活動的に暮らしていけるよう、地域全体で支援することを目的として、地域ミニデイサービスを、町内20カ所で開設しております。地域ミニデイサービスは、転倒予防に重点を置き、身体機能等認知機能の維持・向上を目的としておりますが、地域の集いの場としての大きな役割も担っており、小さい町だからこそできる、きめ細やかな地域特性に合わせた活動が行われております。

引き続き、地域における見守り体制を構築しながら、介護が必要なく、自立して元気に過ごせる期間が少しでも長くなるよう、生活習慣の改善や運動の習慣化、食生活の改善など、健康寿命の延伸策とあわせて認知症予防策を展開してまいります。

なお、高齢者区分の見直しについては、瀧本議員からは以前にもご提言をいただいているところですが、国の制度に基づいて諸施策を展開する場合、高齢者にかわる呼び方の置きか

えや、新たな年齢区分の設定をすとなると、どうしても事務が煩雑となるばかりでなく、町民側も混乱が予想されることから、町独自の高齢者区分を設定するのは難しいのではないかと考えております。

高齢者区分にこだわらず、元気な高齢者の皆様には現役世代と同様に、生涯現役として活躍することはもちろん、公民館などの地域活動やボランティア活動に積極的にご参加いただくことが、認知症予防にもつながると思いますので、引き続き地域の活力となりながら、みずからの健康寿命の延伸につなげていただきたいと考えているところであります。

以上です。

○議長（菊池 孝君） 再質問を許します。

瀧本正徳君。

○4番（瀧本正徳君） それでは、最初、1項目めについてでございます。

今回、2項目にしたんですが、1項目は具体的と、それから2項目については理念的な部分があると思いますが、まず、世小の森公園の関係なんでございますが、基本的には地域主体でもって維持管理すると。すごく望ましいことだと思いますし、それについては、ぜひともバックアップしながら継続するというふうな形でいいのかなというふうに、私は思います。

ただ、もう既に公園の分ね、トイレの周辺等を含めて、あと生け垣等を含めては可能だけでも、その忠魂碑と言えは変ですが、坂のほうの分については一切手が回らないというのが、ずっとずっと続いているんです。

ただ、それでもいいかもしれませんが、あの場所は、この町に入っても最初にイメージを受けるような場所なんだ。川のそば、山のトンネル抜けてきて、最初にイメージを受けるところだということであれば、今からは地域もさることながら、町としてこうしたいなというのがあってもいいのかなというふうに思いますが、その辺の考え方を伺います。

○議長（菊池 孝君） 総務課長、熊谷公男君。

○総務課長（熊谷公男君） 世小の森公園につきましては、町長答弁申し上げたとおり、地域の方々が主体的に整備して、大切に維持してきたというふうに捉えてございます。

平場の部分につきましては、議員おっしゃるとおりということで、当方も考えてございます。のり面、急な部分につきましてはの修景といたらいいんでしょうか、そういった部分については、現在検討しておらないところです。

議員ご提案の部分につきましては、今後のあり方、どうあるべきかという部分については、これからなのかなというふうに考えております。

以上であります。

○議長（菊池 孝君） 瀧本正徳君。

○4番（瀧本正徳君） そういうふうな進み方でいいと思いますが、確認しておきたいことがあるんですが、あそこの部分の上のほうに、私の立場で言うと変に捉える人もいるんですが、お社があるんですね。その手前のほうは、私は町の土地が相当だというふうに聞いているんですが、その部分について、わかるのであれば教えてください。

○議長（菊池 孝君） 総務課長、熊谷公男君。

○総務課長（熊谷公男君） 具体的な境界等の確認はしてませんが、おっしゃるとおり町有地というふうに認識しております。

○議長（菊池 孝君） 瀧本正徳君。

○4番（瀧本正徳君） であれば、今後の検討、地域等の意見等も含めて、今後こういうふうな形でやっていきますよというふうに決めるとしていますので、町が関係ないというわけにはいきませんから、町有地管理も含めて、景観も含めてそういう部分についてはきちんとやってほしいなというふうに思います。これは、こう思いますがどうでしょうかとか訊きませんので、思いますので、そういう趣旨に合うような形で、ぜひとも趣旨というのは、町で言ってる小ざっぱり的な環境、景観的にもすばらしいということですし、そこらやっぱり見えませんので、眺めもいいということなんで、生かすべきところの一つかなというふうに思いますので、その辺を含みながらやっていただきたいというふうに思います。

二つ目に行きますが、まち家世田米駅の外トイレの関係なんですけど、清潔なトイレというのは当たり前という、一番売りにすべきすばらしいことだなというふうに思っていますので、私は早々に、少々お金をかけてもいいから、あそこにはきちんとしたトイレをつくるべきだと。早い話が蔵の一つを蔵トイレと、全国に名を売ってもいいんじゃないかなというぐらい思っているんですが、その辺についての考え方はどうでしょうか。

○議長（菊池 孝君） 企画財政課長、横澤則子君。

○企画財政課長（横澤則子君） まち家世田米駅のトイレに関して、蔵トイレというご提案ありがとうございます。

蔵改修、全体的な事業計画を今、立てているところであります。やはり老朽化した蔵ですので、改修に当たっては維持保存なのか、あるいは内容を変えるのかによって、財政的な面の負担というものも大きく違いますし、なかなか補助事業に、形を変えてしまうと補助事業に適用されないという部分が多いですので、それらの優先順位、あるいは財政的な面も踏ま

えながら検討してまいりたいというふうに考えているところであります。

○議長（菊池 孝君） 瀧本正徳君。

○4番（瀧本正徳君） 基本的にはそれでいいのかなとは思いますが、しつこいようですけども、あそこはもう検討というよりも、即進めることのための検討をしていただきたいと。

というのは、あそこに3万人も集まるといったら、とんでもないことなんですよ。このチャンスを生かさない手はないと。

それともう一つは、さっきからずっと出ていますが、清潔で、また入りたくなるようなトイレっていうのは変な言い方なんですけど、清潔でここはすばらしいなと思えば、それが人を呼ぶんですよ。ですから、そういう部分を含めた考えでもって対応していただきたいというのが一つ。

それから、周辺という言葉も使ってますが、お便所だけじゃなくて、周りも計画的にやってほしいと。なぜかといいますと、駐車場に車をとめますよね。当然、ぱっと帰る人もいますが、周りをちよろちよろ見ながら歩いている人の中に、個人の土地になると思いますが、碑のある部分を一生懸命のぞいたりしてるんですよ。ところが人が入れないような藪なんです。あそこ、春になれば、ものすごいいっぱい桜が咲く部分なんですけど、お金をかけなくてもちょっと借りて、ちょっと手入れしただけでもすばらしいところになるというふうに思いますので、その辺ともセットでもっての考え方を持ってほしいと思いますが、どうでしょうかね。

○議長（菊池 孝君） 企画財政課長、横澤則子君。

○企画財政課長（横澤則子君） 先ほど町長も答弁申し上げましたとおり、中心地域活性化構想の策定年度、今年度までとなっております。周辺まで含めるというふうになりますと、次期計画に盛り込む内容かなというふうに思いますので、スピード感を持ってということは重々理解しているところですけども、トイレの清掃の管理の体制というのも、まだ具体的に目に見えないところもありますので、体制、それから周辺も含めて、次期計画の中で検討をし、計画に盛り込んでいく内容かなというふうに捉えているところであります。

○議長（菊池 孝君） 瀧本正徳君。

○4番（瀧本正徳君） そういう進め方しかないでしょうかね。私は、ここの部分だけはともかく急ぎたいんですよ。急ぎたい理由については、今の状況で少なくとも、来た方ががっかりするようなイメージは出たくないというふうに思っています。

でありますので、次期計画のそれでいいんですけども、あんまりお金がかからないという

部分であれば、明日にでも生まれやっというぐらいの気持ちがありますので、無理はわかってるんですが、そういうふうなつもりでここの部分については対応していただきたいというふうに思います。

これ、この間、お祭りやっというばい人が集まったときに、その後の反省の中でもいろいろ出ました。祭り事という、何となく神社の仕事みたいな形になってしまって私は言いにくいんですが、人が集まる土地には必ずお便所が必要なんで、しかも快適なトイレが必要なんですよ。ですから、そういう点では、いっぱいいっぱい人が来てくださいよと言うのであれば、最初から住田町はそういうふうな条件は整えていますよというぐらいの気持ちを持ちながら、計画を立てていただきたいと思います。1番については終わります。

大きな二つ目でございますが、とんでもない長寿社会ということで、今、進んでいるわけでございます。マスコミ等が大騒ぎしているわけでございますけども、この町はどちらかというと先進的に100年時代に向かっているというふうに思いますんで、この町の取り組みを、ぜひとも広げていくような、ほかの地域の参考になるような取り組みをしたいなというふうに思っています。

それが、ただ生きるんじゃないで、長寿ですから年をとって高齢になって喜ばしいと。リスクじゃないですよ、リスクとしないで喜ばしいというような地域づくりを、まずそういう方向を出そうじゃないかということで提案しております。

先ほど、気持ちの持ち方で満足・不満というのがあるというような話をしましたけども、それとは別に、まずは客観的な部分で、私たちはこの、これに対してやっというじゃないかなというふうに思っています。

進め方については、今回、悉皆というふうな言い方をしました。ことごとくみんながという意味なんです。ですから、この運動にかかわるカフェでも何でも構いませんが、健康づくりでも構いません。悉皆という観点が、取り組み、それから業績評価の中に入っているかどうか、まずそれをお伺いします。

○議長（菊池 孝君） 企画財政課長、横澤則子君。

○企画財政課長（横澤則子君） 町民みんなが、全てがというところかと思えますけれども、業績評価の中に、その意識が入っているかというご質問でよろしかったでしょうか。

意識としては、常に町民皆さんがという意識を持って、取り組んでいるところであります。

○議長（菊池 孝君） 瀧本正徳君。

○4番（瀧本正徳君） そのとおりだと思います。悉皆を考えないのであれば公の部分ではご

ざいませので。

そこで、悉皆について話しさせていただきたいんですが、業績評価で何名の方が参加しましたとかというのは、延べ人数がほとんどの言い方なんです。できれば、本来は何人該当者がいるよと。来てほしい人が、ただ100人ですよと。その人たちが、何回か重ねてこういう数字になりましたというふうな形の報告の仕方があるものかどうかを、お伺いしたいと思います。

話の仕方がちょっと下手なんです、例えばカフェでもいいんです。延べ3,000人といった場合には、何人の方で、延べ何人になりましたというような言い方、見方をしているかどうかです。

○議長（菊池 孝君） 企画財政課長、横澤則子君。

○企画財政課長（横澤則子君） 現在の総合戦略、総合計画の中ではK P Iという目標設定の中で、その目標にどれだけ達成したかというような評価になってございます。対象人数が幾らで、その何割かというような評価には、現在のところはなっていないかなというふうに捉えております。

○議長（菊池 孝君） 瀧本正徳君。

○4番（瀧本正徳君） 私も今回の質問するために、ちょっと半年前からずっとこれ、総合計画から何から新聞等を読みながら考えたんです。できるだけ多くの人がかかると。同じ人が何回も来るという意味じゃなくて、多くの人がかかると。その場合に、どのような手だてをとったらいいのかなというふうに考えました。

そのときに思った住田らしさといえ、何といっても一番の下部の組織である自治公民館を動かしていくしかないのかなというふうに思いました。自治公民館に付随した本当の地域の婦人部でも構いませんが、いずれ一番、住民一人一人とつながった組織を強化することが、この町の生きる道なのかなというふうに、結論的に思ったんです。ですから、あえてみんながということで、悉皆というような言葉だったんですよ。そのために、では自治公民館、要するに一番最小の住民と接している公民館の活性化には、どういうことをしたらいいのかなというふうに思いました。

そこで、教育委員会のほうにお伺いしたいんですが、自治公民館については、活動費を含めていっぱいお金が出て、十二分に活動できるように条件はそろってるんですよ。ところがいかんせん、公民館長になりたくないとかいろんな話があるんです。そこで、教育委員会とすれば、維持管理、活性化について、自治公民館ですよ、どのような考え方を持

ってるのか伺いたいと。

○議長（菊池 孝君） 教育長、菊池 宏君。

○教育長（菊池 宏君） 瀧本議員おっしゃるように、地域の元気を、あるいは活動の活性化を担っているのは自治公民館のご活躍と申しますか、頑張りに頼っているところが多いんですが、各地区の地区公民館、ここが今、核になってそれぞれの自治公民館にさまざまな提案をしたり、あるいは情報提供をしたり、あるいはイベント等をする場合の用具の貸し出しとか、センター的機能の役割をしているんですが、ぜひ、地区公民館と相談をして、各自治公民館のさらなる活性化を図っていただきたいというふうに、願っているところもございます。

例えば例に挙げますと、各地区公民館で行われている高齢者教室があるんですが、私はこの高齢者の方々元気というのが、すごく力になると思っております。毎年行われている高齢者教室への参加というものは、非常にほかの事業、行事とも勝るとも劣らない、すごい参加率なんです、そういったところを、さらにさらに広めていければいいのではないかなというふうに思うんですが、今現在、そうやって活躍をしていただいている方々が、誘っていただくというんでしょうか、近隣住民の方々、隣あわせて誘っていただいて、さらに参加するというような機運を高めていくようなことができればいいのかなというふうに考えております。

○議長（菊池 孝君） 瀧本正徳君。

○4番（瀧本正徳君） まさに人が動くのは、パンフレットとか、住田テレビで放映したからということで人は動きません。新しい行事に、動く人はもちろんいるんですよ。新しい行事に新たに参加していただけるのについては、やはり人と人が話をしないと、これ正直いって効果がないようです、ほとんど。

ですから、大きなイベントね、この間の5月のようなイベントの場合は、係の人が2回も3回も行って、何とか出てくれというふうな形で動いて、やっと初めて来た。何十年と出なかった人が初めて来たというケースもございますので、そういう中では、本当、一番最後の組織の活性化、リーダーの方々の意識化というのが、ものすごい大切な部分だと思うんですよ。ですから、ここの部分の手だてはとってほしいなというふうに思います。

ありがとうございますという敬意をきちんと表すだけでも、動く人もいっぱいいますんで、やはりそういう点については、高所から見ではなくて、担当の方々もその場に入ったような形になって動いてほしいと。これ原点だと思いますんで、ぜひともお願いしたいと思います。これの出来不出来が、この町の左右です。将来を決めるというふうにさえ私は

思ってますんで、ぜひとも人生100年時代のその部分についてはやっていただきたいというふうに思います。

総合計画の中にも、地域コミュニティ機能の低下が大きな課題ですというふうな形で、既に盛り込まれているんですよ。だけども、それじゃ、それに対する対応というのが見えないうのが正直なところですから、さっきも何回も言ってますけども、計画は立派と。だけど、実際に動くのは、また別な部分がありますんで、そういう中では地域の一人一人がその気になって、残念ながら今まで参加できなかった、参加率が低いという部分であれば、声がけといいますか、お誘いというような形になりますけども、その部分の大切さというのは、計画よりももっともっと必要なのかなというふうに思っております。それが、とりもなおさず悉皆、要するにみんながことごとく、みんなが関わるんだよというふうな形の施策の一つになるのではないかなというふうに思っています。その辺はよろしくお願ひしたいと思いません。

それから、人生100年時代に係っては、国がやることはどうでもいいってことじゃないんですけども、国がやることもさることながら、住田としての取り決めでもう一つ大切なのは、何といても出やすいような状況をつくるということで、自治公民館がありますよということが一つと、それから心の教育の、成人教育というんですか、大人の心の部分の教育の部分は、このスケジュールどおりにいってるのかなというあたりがあるんですよ。本当に大切なことが、ややもすると二の次になってしまうというのは世の中の流れですんで、その部分についてだけは、ぜひとも大人になった以上は、この町で生きていく以上は、地域活動も含めた部分でこういうふうにしてやっていきましょうねというあたりは、大人なのか小中学生なのかよくわかりませんが、この地域教育というのがどういうふうな形でやろうとしているのか、大人に対してもいいし、子どもでもいいというふうに……。

○議長（菊池 孝君） 教育長、菊池 宏君。

○教育長（菊池 宏君） 議員ご存じのように、今、小中学校、高校も含めて保育園からですか、連続した13年間、14年間の取り組みを展開しているわけなんですけども、それは社会的実践力を子供たちにつけたい、そういう願ひを持ってやっていることであります。それは将来、社会の役に立ってほしいといいますか、社会参画力も身につけてほしいという、その願ひもあるんですけども、その中で生涯学ぶとか、生涯楽しむとかそういった機運の基礎、心構えの基礎をつくらうとしているわけです。ぜひ、子どもの時代からそういった素養を身につけて、地域に貢献しようというふうな、あるいはその地域で楽しもうというようなところを醸

成りたいなというふうに思っているわけです。

それから、成人については、生涯教育といいますか、社会教育といいますか、そういったところでいろんな仕掛けをさせていただきます。例えば楽しむという部分についてはスポーツレクリエーション、クラブとかグラウンドゴルフとか、そういったところへの活動の支援もさせていただきますし、学ぶという点についても、例えば森のマイスター講座でありますとか、先ほど申し上げた地区ごとの高齢者教室とか、そういったことも展開させていただきます。

いずれ、その地域のコミュニティーというものをもとにしながら、大切にしながら、こういったところで生涯学ぶ、楽しむというところの展開を図っていききたいなというふうに思っているわけでありまして。生きがいを持った人生を送るための仕掛けというものは、大変大事なんだろうと、私も思っております。

○議長（菊池 孝君） ここで、4番、瀧本正徳君の再質問を保留し、午後1時まで休憩します。

休憩 午後 0時00分

再開 午後 1時00分

○議長（菊池 孝君） 再開します。

ただいま1番、荻原 勝君から、一般質問の際の、若い女性とお金のある人が結婚できるという旨の発言について、誤解を与える不適切な発言であったとして、会議規則第64条の規定により取り消したいとの申し出がありました。

お諮りします。

これを許可することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（菊池 孝君） したがって、1番、荻原 勝君からの発言取り消しの申し出を許可することに決定しました。

休憩前に保留いたしました4番、瀧本正徳君の再質問を許します。

瀧本正徳君。

○4番（瀧本正徳君） それでは、再質問をさせていただきます。

大きな2項目めの、人生100年時代ということについては先ほど来話ししておりますが、いずれ超長寿ということで間違いなく来ますということを念頭に置きながら、この町のことを考えていきましょうねということです。

それに関わっては、一つは悉皆ね、関心のある人だけじゃなくて、みんなが関わるというふうな形の取り組みが大切ということと、もう一つ、優しくというふうにしつこいぐらい言ってるんですが、優しさというのは、しゃべっても言うことを聞かねばしょうがないって、放っておけて、個人の勝手だというのは優しさとは言いません。教育者であれば、幾ら教えても覚えないから、あれはだめだというような形で決めるのと同じになってしまいますから、能力の放置と責任の放置となってしまいますんで、だとしても目的達成のためにはということ、丁寧に丁寧に、何度でも何度でもというふうな気持ちでもって事に当たるというふうな、解釈してほしいなというふうに思っております。ぜひとも、その部分を取り違えないでいただきたいなというふうに思います。言葉だけじゃなくて、そういうふうな意味がありますよということです。それでお願いしたいと思います。

我々が、この100年時代を迎えてきちんと押さえておかなければならないことの一つに、100年時代をみんなが喜んでいるかというふうなあたりの捉え方でございます。先ほど来リスクにすべきではないというふうな話をしていますが、いろんな新聞等の報道であれば、七、八割の方々は身体的、要するに体が言うことを聞かないと、病気だと。それから、この後やる精神的な部分でままならないと。みんなに迷惑はかけたくない。だから、それまでしろやっというふうな形のもの、先に立っているようでございますが、住田町の状況については、どのような形で見てるのかなというふうなことだけ、お伺いしたいと思います。

○議長（菊池 孝君） 企画財政課長、横澤則子君。

○企画財政課長（横澤則子君） 人生100年時代を、どのように捉えているかという質問かと思えます。

住田町の状況、どのように捉えているかという部分でございますけれども、皆さんそれぞれ100年時代、健康で生き生きと生きたいというふう願っているというふうには捉えてございます。住田町の場合、先ほど議員の質問にもございましたとおり、自治公民館などでの活躍は、70歳ぐらいの方々が先頭を切ってやっているというような状況もあります。

また、地域で手助けが必要な方についても、民生児童委員さん、それから福祉協議会さん、地域の方々の手助けの中で、都市部に比べれば近い関係性がありますので、サポートを受けながら暮らしていらっしゃるというふうな捉えてございます。

コミュニティー力が人口減少によって小さくなっているとはいえ、まだまだ隣近所の交流もありますし、そういう面では住田町は、人生100年時代を生き生きと、という方もいらっしやいますけど、ちょっとまあ体のということもありますでしょうけれども、全体的には穏やかに暮らされてる方が多いのではないかなというふうに、捉えているところであります。

○議長（菊池 孝君） 瀧本正徳君。

○4番（瀧本正徳君） 生き生きとね、長寿を祝う観点でもって施策を進めてほしいというふうに思います。

最後に、町長に確認しておきたいんですが、いずれ今からますます大変な時代ということで、人生100年時代といいますか、超長寿の時代と、少子化の中で超長寿の時代というふうになって、今までの話をまとめますと、いずれこのリスクとしないと。そのためには、一つは地域づくりだよというふうなことがずっと話されたと思いますし、あとはそれなりにいろんなクラブ等で運動したりなんか、それからみんなが集まる機会を設けるというふうな形というふうな話を聞いてますし、教育委員会のほうからは、お一人お一人が自分ごとというふうな形で、自分のこととして捉えるような形の生涯教育という話も聞いてますんで、それをまとめて町長は、医・食・住はそのとおりで結構で、私は、ぜひとももっともっと進めてほしいというぐらいなんですけど、この人生100年時代にこの町ではこういうふうにしてやっていこうというふうな形の思いがあるのであれば、お伺いしたいんですが。

○議長（菊池 孝君） 町長、神田謙一君。

○町長（神田謙一君） 今、さまざまなご指導なりいただきながら、また、企画財政課長が答えているようなとおりでございますけども、いずれこの国内において現状は、過去に経験のないような社会構造というのはご承知のとおりであります。

そういう中において、瀧本議員もおっしゃったとおり、ある意味の課題先進地ということだけではなくて、こういう地域において、その地域というつながりというふうな部分においては、都市部よりも進んでいるというふうな地域というふうに思っております。地域の相互扶助、家族同士の助け合い等々、生活のさまざまな場面において支え合うというふうなことが、今までこの地域でやられてきております。

社会保障等々、制度等が進む中で、そういう部分が逆に社会変化とともに、必要性とともに、逆につながりが薄らいできてしまっているというふうな部分も、ある意味では社会現象として出てきているのかなというふうにも捉えております。

いずれ人と人のつながりが失われていくということになりますと、生活の質が低下してく

る。最終的には、生命というような部分のリスクにも、当然つながる、高まってくるというようなことにもなります。自立をしていく、健康でというような部分を含めて、ある学者、先生がおっしゃっていますけども、誰にも頼らず生活できるということではなくて、頼れる先をたくさん持って、そういう社会構造をつくるということが、ある意味での自立という考え方もございます。

そういう中で、人間それぞれさまざまな困難な場面に直面することもあるわけですけども、誰もが役割を持ちながら、そしてお互いに配慮し、お互いを尊重しながら認め合いながら、そしてお互いを支え合うというようなことを、この地域ならではの、進めていかなければいけないだろうと。それが、100年長寿社会における必要性というふうに考えております。

以上です。

○議長（菊池 孝君） 瀧本正徳君。

○4番（瀧本正徳君） 地域づくり、つながりができるのは、こういう小さな町だからこそ可能だというふうな大きな利点だと思いますんで、生き残れるというふうな地域を、ますますつくっていききたいというふうに思っています。

（2）のほうに入りますが、認知症についても100年時代に伴うものというふうな形で見えています。100年時代のほんの一部的な部分というのが認知症と。それから、健康寿命のかなというふうに思います。

まず、わかりやすいところから、高齢者区分から入っていきたいと思いますが、私が何でこれにこだわるかについては、いろんな日々の暮らしの中で、私は年だからというふうな言い方をして、本来、参加してほしいことに参加しないというのは結構あるんですね。その、年だからというのは何歳からという、高齢者だからというふうな言い方をするんですよ。ところが、人生100年というような感覚でいえば、年だからというのは還暦でいうと人生半ばですから、とんでもない部分でもって高齢者というふうに決めていると。しかも、昔は平均寿命を過ぎた人を高齢者とされておるんですよ。今、平均寿命の20年も前から高齢者というふうな世の中ですから、どう考えてもおかしいと。

国がやってるからというのではなくて、今、統計等のために、国がやっているとおりやらないとデータが出ないというのはありますけども、1項目か2項目加えてやれば、コンピューターはちゃんとした数字を出してくれますんで、その辺は国が動くのを待つのではなくて、この町はこの町として、そういうふうな部分の対応をしてもいいんじゃないかというふうに思いますが、再度確認します。

○議長（菊池 孝君） 保健福祉課長、佐々木光彦君。

○保健福祉課長（佐々木光彦君） 高齢者区分についてお答えをしたいと思います。

高齢者区分につきましては、先ほど町長のほうから答弁を申し上げたとおりでございますけども、ただ、瀧本議員おっしゃいますとおり、例えば現在の高齢者というのが肉体的にも、あるいは精神的にも、昔で言われる高齢者と比較すれば、元気な方々が圧倒的に多いというのは、私のほうでも認識をしております。もはや現在の年齢基準に高齢者と一括りにするには、ちょっと無理があるのかなというのは承知はしておりますけども、ただ、繰り返しになりますけども、現在の社会保障制度の中で行政を行っていく上では、なかなか区分を変えるというのが難しいですし、町民の皆様も混乱が招かれると、混乱するというのが予想されますので、国のほうで制度が変わってくれば別ではございますけども、現況としては、今の状態で進めさせていただきたいということにご理解をいただきたいと思っております。

○議長（菊池 孝君） 瀧本正徳君。

○4番（瀧本正徳君） ずっとそのような説明を受けて、はい、わかりましたにしてるんですが、もう、そんなときじゃないよと。そういうふうなデータはつくってもいいと。ただ、認知症を含めたこういう対策については、今からお金をいっぱいかけられる時代ではないんですよ。これから先お金をかけたら大変なことになりますから、だとすれば、今、65歳を過ぎそのあたりの人、もっと上の人たちが、俺たちは元気だよというふうな自覚を持つような、何かの提案が欲しいんですよ。それだけなんですよ。

ただ、やり方が悪いと年金を70だ、75だとされては困るんだけども、そういう部分があって、町としてこういうふうな対策をとる場合にはそうじゃないかということをやって、生き生きとした人たち、生き生きとした社会をつくるのが、この二つ目の健康寿命、認知症にかかわる部分で効果があるんじゃないかなと、私は思うんですがね。

○議長（菊池 孝君） 保健福祉課長、佐々木光彦君。

○保健福祉課長（佐々木光彦君） 繰り返しになりますけども、高齢者区分にこだわるという部分ではなくて、一人一人が社会参加をする際に、積極的な、自発的なといいますか、積極的に参加していただけるような呼びかけといいますか、そういう部分で呼びかけを強くやっていくということが、町としてもできることだとは思っておりますので、ぜひ町民の皆様には、積極的な参加という部分で、一人一人にご協力いただければというふうに思います。

○議長（菊池 孝君） 瀧本正徳君。

○4番（瀧本正徳君） また後で角度を変えてやりますけども、いずれ前の年とか10年前と

同じような対策を、計画を立てているときじゃないということ、考え方はぜひとも持ってほしいと。でないと、65歳を75歳にしろという提言を受けてから、もう2年経っているんだけど、国としてもね、いろんなコラムから社説では出てくるけども、国としての方針は、全然出てこないんですよ。国は、どちらかというと年金改革というか、悪というかよくわからないんですが、年を上げることばかり考えていますから、うっかりはできないんですけども、いずれ町とすれば、お一人お一人がみんな幸せで満足して暮らすためには、やはりそういうふうな展開は、10年前とは同じではないよということを意識してほしいなというふうに思っています。

そこで、質問は認知症、健康寿命ですから、認知症にかかわっては、この間70代を1割減らすとか何とかという話があって、急遽、騒がれてやめたというような背景をどう見ているかについて、もし押さえ方があるのであれば、一言でいいです、お伺いしたいと思います。

70歳以上の認知症予防を、70歳以上で1割ぐらい減らしますよというふうな予定を出したんですね。ところが、それがいいの悪いのということになって、やはりいろんな世論的な問題になって、やめたんですよ。私は、そのやめた理由は、やはり担当者として、町として押さえておいてほしいなというふうに思っているんですが、それについて。

○議長（菊池 孝君） 暫時休憩します。

休憩 午後 1時17分

再開 午後 1時18分

○議長（菊池 孝君） 再開します。

瀧本正徳君。

○4番（瀧本正徳君） 認知症にかかわっては、国から社会が大きく動いています。何とかしなければならない問題の一つということで、本気になっていろんな提案をしてくると思います。ぜひとも、この町であれば何ができるというふうな観点でもって対応してほしいと。さっき話したコミュニティー、交流が一番の原点だと思いますし、趣味、生きがい等も含めた部分があると思います。

そこで、町のリーダーの皆さんから、これにかかわる担当課としての意見を教えていただければいいのかなというふうに思います。

初めに農政課のほうから、私は、住田町は農地がいっぱいあると。土地があると。であれば、高齢になったとしても野菜を育てたり、ものを育てるとか、農業をたしなむというような形の生活が、予防にはベストかなというふうに思っているんですが、その辺の考え方を伺います。

○議長（菊池 孝君） 農政課長、紺野勝利君。

○農政課長（紺野勝利君） 年ということではなく、健康なうちは農業に楽しく従事していただくということは、非常にいいのかなというふうには考えますが、農福連携という言葉があるように、そういう制度と申しますか、取り組みをしているところもいっぱいあります。雇用という形、あるいは認知症に関しての支援という形等あろうかと思えますけれども、今現在、町としては取り組んでいる例は、ちょっとないものですから、きちんとした形で取り組んでいくためには、今後において、そのあり方等を関係者と協議していかなければならないものと考えております。

以上です。

○議長（菊池 孝君） 瀧本正徳君。

○4番（瀧本正徳君） まさにその部分だと思いますんで、ものを育てる、管理をするというのは、日々のリズムが出ますし、気持ちの部分で充実しますんで、そういうふうな対策というのは、この町の特徴になると思いますんで、ぜひ進めていただきたいと思います。

次に、林政のほうにお伺いしますが、周り一帯山でございしますが、認知症とか健康寿命等々で考えて、人生100年時代でございしますから、どのような形であの山とのかかわりを、みんなに提案したらいいのかなというふうなこと、あればお願いしたいんですが。

○議長（菊池 孝君） 林政課長、千葉純也君。

○林政課長（千葉純也君） 林政課とすれば、現在のところ、そのために行う施策というのは計画にはございません。

ただ、現在、町で行っているさまざまな施策の部分に、山の手入れとかそういった部分で、行っていただければなというふうに思っております。

以上です。

○議長（菊池 孝君） 瀧本正徳君。

○4番（瀧本正徳君） その部分はぜひとも、もう既に山守の会とかいろんな動きがありますんで、そういうふうな方々との連携ということで、進めていただきたいなというふうに思っています。

あと、最後になりましたが、認知症、健康寿命を含めて、今からの住田町はこういうふうにしていきますよということを一言、町長にお願いしたいんですが。私は、運動も含めて、やはり総合的に各課を超えた形の取り組みをすべきときかなというふうに思いましたので。

○議長（菊池 孝君） 町長、神田謙一君。

○町長（神田謙一君） まさに本当に難しい問題ですが、認知症ということだけに限らず、人は生きていくという重要性という部分、まさにその幸福のあり方等も含めて、いろんな考え方があるんだろうと思います。

ただ、目指すところは一緒であって、いわゆる縦割り行政というような社会、今まであるわけですが、そういうことではなく、それぞれの課の中で、やはり瀧本議員おっしゃるとおり、小さい町でございますので、連携をとるところは連携をとりながら、どう幸福感を醸成できるかと。限られた資源の中であっても、その幸福のあり方、世の中の変化とともに、当然変化せざるを得ない部分はあるわけですが、そういう部分を創意工夫しながら、また議員の皆様方のご指導、ご意見等々もいただきながら、町民との話し合いの中も進めながら、考えていきたいと考えております。

以上です。

○議長（菊池 孝君） これで、4番、瀧本正徳君の質問を終わります。

◇ 林 崎 幸 正 君

○議長（菊池 孝君） 次に、8番、林崎幸正君

[8番 林崎幸正君質問壇登壇]

○8番（林崎幸正君） 8番、林崎幸正であります。

通告により、大きく3点質問させていただきます。

大きい1点目でございます。木工団地2事業体の未償還金等への対応についてでございます。

木工団地2事業体の未償還金等への対応について、住田町の重要課題でありますことから、次の点をお伺いします。

1点目でございます。町当局、町顧問、議会による対策チームの検討状況はどうなっているのかお伺いします。

2点目でございます。今後、どのように進めていく考えかお伺いします。

大きい2点目でございます。CLT工場の誘致についてでございます。

町内にCLT工場を誘致しているとのことから、次の点をお伺いします。

1点目でございます。誘致場所はどこかお伺いします。

2点目でございます。現在の状況はどうなっているのかお伺いします。

最後の大きい3点目でございます。滝観洞の再開発についてでございます。

滝観洞の誘客と再開発を進めるべきと考えることから、次の点をお伺いします。

1点目でございます。釜石自動車道のインターチェンジとトンネルに、滝観洞という名称がつけられているにもかかわらず、必ずしも誘客につながっていないと思われることから、もっと積極的にPRすべきと考えるがどうかお伺いします。

2点目でございます。老朽化した観光センターについて、温泉も備えた施設に建てかえをすべきと考えるがどうか、最初の質問にさせていただきます。

○議長（菊池 孝君） 答弁を求めます。

町長、神田謙一君。

〔町長 神田謙一君登壇〕

○町長（神田謙一君） 林崎議員のご質問にお答えをいたします。

木工団地2事業体のご質問につきましては2項目ありますが、一括してお答えをさせていただきます。

2事業体に対し、町の債権総額10億円超の支払いを求め、両事業体と連帯保証人に対し、調定の手続の申し立てを行っておりましたが和解、合意に至ることができず、残念ながら調定を打ち切ることとなり、このことにつきましては、昨年9月議会において、その経過についてご報告させていただいたところであります。

このことを受けまして、9月議会終了後に対策チームの立ち上げについて、議員の皆様にご提案させていただきました。両事業体への融資を行ってから10年以上経過しており、債権整理について、時間的にも短期間で解決を図っていくためには、町と議会が一体となって進めていくことが望ましいと考えており、議員の皆様からもご賛同をいただき、3名の議員の方を対策チームのメンバーとして選出をいただきました。

第1回の対策チームによる検討会を昨年10月31日に開催し、議会から選出いただいた3名の議員の方、町のほうからは私、副町長、担当課職員2名、多田顧問の8名が出席し協議を行ったところであります。その内容につきましては設置意義の確認と、これまでの経過に

ついて再確認のため報告をし、今後の取り組みについて協議を行いました。

その後、対策チームの検討会は月1回程度行っており、これまで7回行ってきたところがあります。その内容につきましては、その都度の状況報告を行い、情報の共有を行うとともに、今後の進め方について協議を行ってきたところでもあります。

また、機会を捉えて議員の皆様ともその内容について報告・協議をさせていただいてきたところでもあります。

町では、平成31年2月に2事業体に対し、今後の対応の具体的予定や具体的な支払い計画について求める催告書を手渡し、3月末に事業体からの回答をいただき、公認会計士を依頼して財務分析を行うこと、分析は平成30年度決算により行うこと、分析には所要の日数を要することの報告を受けております。

今後につきましては、事業体からの財務分析結果、事業運営のあり方、返済計画等の報告を受けて対応を協議していきたいと考えております。報告につきましては、事業体からの要望により、9月末日までにいただくこととしております。

町としましては、町の顧問弁護士や外部の公認会計士等のご意見をいただきながら進めてまいりたいと考えており、取り組む方向性が見えてきた段階において、議員の皆様とともに協議をしながら進めてまいりたいと考えているところでもあります。

次に、CLT工場についてであります。これも2項目ありますが、関連しておりますので一括してお答えさせていただきます。

林崎議員ご承知のとおり、CLT工法は中高層建築の構造材としての利用などが、大きく期待されている新たな木質構造用材料であります。国では、CLTの普及に向けたロードマップを策定し、全国で5万立方の製品を生産できる生産体制を、順次、整備していきながら、令和2年度までにはその倍の年間10万立方、令和6年度までには50万立方の生産体制を構築する目標を掲げて進めているところでもあります。

本町にとりましても、CLT工場誘致となれば、林業振興や雇用の創出などが図られる、ひいては町の活性化にもつながるものと思っているところであり、町としてもぜひ誘致したい考えから、現在も町内森林・林業関係者とともに、町内にCLT工場誘致に向けて取り組みを行ってきておりますが、工場の誘致場所も含め、現在のところはまだ確定していない状況となっているところでもあります。

町としましては、今後もCLT工場誘致に向けた取り組みを、引き続き進めてまいりたいと考えております。

次に、大きく3番目のご質問、滝観洞の再開発についてであります。

釜石自動車道についてであります。ことし3月に全線が開通し、あわせて三陸自動車道の整備も進んでおり、周囲の交通状況は大きな変化が生じております。

滝観洞インターチェンジが供用開始となった平成20年前後の観光客入り込み客数は、平成19年が9,101人、平成20年が1万6,700人、平成21年が1万4,228人、平成22年が1万3,344人、そして平成23年3月に東日本大震災が発生し、落石により一時閉鎖となりました。翌年7月にリニューアルオープンとなりましたが、入り込み客数は回復しないままであり、平成29年には8,647人、平成30年には9,162人と減少している状況であり、なかなか誘客にはつながらない状況が続いております。

しかし、先般の4月末から5月にかけての大型連休中は、昨年までの同じ期間中の入り込み客数と比較して1.5倍の約2,100人となっております。釜石道が全線開通してから2カ月しかたっていないこと、超大型連休であったことの要因も大きいと考えられますが、今後においても積極的な誘客の活動を進めていく必要があるものと捉えております。

昨年度においては、三陸防災復興プロジェクト推進のための観光物産体制整備事業を活用した、洞窟内照明LED改修工事、新規案内板の設置、宣伝広告やポータルサイトの整備などを行い、今年度においても地域経営推進費を活用し、三陸防災復興プロジェクト関連事業として、インバウンド対策に取り組むこととしております。運営しております住田観光開発株式会社と協議しながら、よりよい取り組みとなるよう、引き続き誘客に係る事業に取り組んでまいりたいと考えております。

次に、滝観洞観光センターについてであります。

昨年度の12月、3月の議会においても答弁しておりますが、昭和46年に建設され47年が経過し、外観や周辺施設の老朽化が目立つようになってきております。施設につきましては、補修や改修につめ、また、滝流しそばの施設など別棟を設置するなど、時期を捉えて施設整備に努めてきているところであります。

温泉も備えた滝観洞観光センターの建てかえをというご提案についてであります。環境省の国民保養温泉地、平成18年から平成27年度までの調査によりますと、温泉等の入浴施設につきましては、全国的に横ばいの状況。また、その利用者数は約40%減少となっており、入浴施設の多くは厳しい経営状況にあるものと推察しているところであります。このことから、現在の状況下では温泉を含めた早急な施設の建てかえは難しいものと考えております。

また、このセンターそのものの建てかえにつきましても、この施設の将来性や経営の安定性等含めて、施設を運営している住田観光開発株式会社と協議しながら総合的に判断する必要があり、現在の状況下では、早急な施設の建てかえや、全面的な整備は難しいものと考えているところであります。

以上です。

○議長（菊池 孝君） 再質問を許します。

林崎幸正君。

○8番（林崎幸正君） 今回は、副町長だけでなく町長にも答弁を伺いますので、よろしくお願ひいたします。

今、町長のほうから説明がありましたが、まだあまり、対策チームそのものの会合は7回持ったとありますが、進んでないように思います。

それで、先般5月30日に、皆さんご存じのとおり、東海新報に両組合の総会と内容そのものが記載になっておりますが、何せ、なかなか町長が求めているように、返済計画がなかなか出ないと。

それで、今の答弁見ますと9月末だと。本当に9月末に、それなりの会計士を交えた再建計画そのものが出てくるものか、もう一度念を押します。副町長、お答えよろしいでしょうか。

○議長（菊池 孝君） 副町長、横澤 孝君。

○副町長（横澤 孝君） 今、三木・ランバー両事業体において、両事業体が依頼をしました公認会計士において、事業等の精査を行っていると同っておりますので、それについては、両事業体のほうには、私たちのほうから9月末までに、その状況と今後の経営方針等、返済計画等についてご返事を願いたいということで、文書で催告しておりますので、9月末までには到着するものと思っております。

○議長（菊池 孝君） 林崎幸正君。

○8番（林崎幸正君） 私は再三、早くその流れを欲しいということは、9月17日に我々町会議員の告示があつて22日に当否がわかる。その流れの中で、我々だつたって街頭演説から何からして、それなりに町民に訴えながら、当確の議員を目指すというのが選挙であります。本当は、9月の17日前にいろんな流れを知りたいんですが、議員選になるようなその前だよ、あと約3カ月ぐらいありますんで、もうちょっとそれなりの前に、いい情報がもらえるものか、もらえないものか、副町長。

○議長（菊池 孝君） 副町長、横澤 孝君。

○副町長（横澤 孝君） 議員の皆さんの選挙もあろうかとは思いますが、公認会計士さんなり、両事業体のほうからは6カ月程度、事業内容等の精査にかかるというお話をいただいておりますので、その中で進み具合によるものかなとは思っております。

○議長（菊池 孝君） 林崎幸正君。

○8番（林崎幸正君） 副町長ね、我々も選挙なもので、今ここにいる人間が、また同じ顔合わせできれば、それなりの歴史そのものの三木・ランバー、いろんな面の歴史の質疑などがというのは、ある程度継続してわかると思うんですよ。ところが、誰かでも外れちゃうと、またその流れがわからなくなると、そういうようなことを危惧してるんですよ、私。

そして、その流れの中で、いろんな前町長を初め、催告書出したとか調定とかというふうな流れの動きがあって、これ何がといえば証拠ちゅうか、いろんな町民に対して、我々もお金は貸しましたが、公金を貸しましたが、こういうふうな流れをやってきて、こういうふうなまだお金が返済になってないって、少しずつは返済になっていますが完全な返済にはなっていない。ましてや3,100万って、毎年の返済もなっていないというふうな説明事項をつくるがためのいろんな流れじゃないかなと、私、変に思えてならないんですよ。

そして、これをずるずるずるずる延ばしながら、どういうふうな解決策を考えているんだかわからないが、債権だから完全に回収すると。回収するには、あと何年かかるんだか。再建計画が出てくるから、それからまた討論になるんだか。まさか、9月末までには会計士に依頼した債務報告が出てこないとは限らないので、その点が一番心配なんですよ。

これで、ずるずるずるずる債権放棄みたいな形になった場合ちゅうのは、これがいかに町議会議員として、町民に対しての責任というのはどういうような形でとればいいのか。我々、私、一町議会議員としても考えているんですが、皆さんの公金なんですよね。皆さんの公金を貸してやって、取りかねんだというふうなことになれば、これは町民に対して大変な、町議会議員としての怠慢をしているんじゃないかなというふうに見られるのは当たり前であって、そここのところをはっきりしていくための、それなりの討論だと思うんですよ。

だから、そここのところを正直言って、9月までの議会までに詰めていかなければいかんかと、私自身そう思ってますんで、副町長、その間に本当に、もう少しいい情報がもらえないのかお伺いします。

○議長（菊池 孝君） 副町長、横澤 孝君。

○副町長（横澤 孝君） 今までの流れについては逐一、全協なり議会の場において議員の皆

様には報告し、協議をいただいて、行政と議会が一緒になって、その対策についてチームをつくりながら進めているところでございます。

それから、回収とか再建計画という具体的に話に出ましたが、当然、議員の皆様にご説明し、協議をしながら住民の皆様が納得がいくかいかないか、形はいろいろあるかと思いますが、住民の皆様にもご説明をしながら、いかなければならないのは、それは議員の皆様とも同じ気持ちでございますが、9月中にというのは、先ほど私がお答えしたことの繰り返しになりますが、その状況を見ながらでないと、なかなかこの場ではご返事ができかねるということになります。

○議長（菊池 孝君） 林崎幸正君。

○8番（林崎幸正君） この流れは、町の顧問として前多田町長も入って、それなりの対策チーム、こっちから議員が3名行ってますよね。その中でいろんなコミュニケーションをしながら、いろんなアドバイスを受けながら行動しているような流れなんですよ、流れ。

それで、今この東海新報を見ますと、これは幾らか利益が出てて、幾らかずつ返済して、30年度は850万返済していると。このままでいいんじゃないかなというふうに感じ取る人だって、これはあると思うんですよ。

じゃ、それなりのこういうような流れでいって、どういような流れの返済方法まで認めるかっていうようなことも、副市長、頭にありますか。年間幾らっていうような金額決めなくて、それなりに毎年、それなりに利益がとれるような体制になったんだと。それは、その流れを見ながら、その分の余裕のある分返済してもらったほうがいいんでないかというふうな考え方に傾いても不思議じゃないと思うんですが、その点いかがですか。

○議長（菊池 孝君） 副町長、横澤 孝君。

○副町長（横澤 孝君） 今期、三木・ランバー両事業体が、当期純利益を出したということは、これはひとえにプレカットのご協力の体制のたまもの、それから泉田専務の多大なる御尽力のもとで成果があったものと思いき、大変感謝しているところでございますが、その後と申しますか、今年の秋以降、公認会計士さんから財務調査等、事業体の調査が出た後に、いろんな数字とか方向性が出てくると思います。その中で、幾らだからこうだとかいう話には、なかなかこの場ではお話できませんが、その中で、議員の皆様たちと、この方法ならこうだ、あの方法ならこうだというの、お話を詰めながら方向性を見出して、住民の皆様にご説明をして、最終的な方向性を出していきたいと思いき。

以上でございます。

○議長（菊池 孝君） 林崎幸正君。

○8番（林崎幸正君） まだ、副町長から聞きますからね。

今この2事業体が、資金面で余裕があってそれなりの運転をしているのか、それともまたまた、まだまだプレカット関係にお願いして、その資金面を融資してもらいながら経営しているような状態なのか、お伺いいたします。

○議長（菊池 孝君） 副町長、横澤 孝君。

○副町長（横澤 孝君） 私、企業体の経理等には詳しくないものですが、両事業体の決算書等を見ますと、特にキャッシュフローの中身でいきますと、余裕があって資金繰りをしているとは、私個人は思っておりませんので、なかなかその辺の資金繰りは難しいものかなとは思っております。

○議長（菊池 孝君） 林崎幸正君。

○8番（林崎幸正君） 副町長、まだ今、去年の3月で泉田専務にちょっと去ったと思うんですが、まだ、泉田専務にお願いしながら資金調達をして経営しているような状態なんですか。

○議長（菊池 孝君） 副町長、横澤 孝君。

○副町長（横澤 孝君） 2事業体の資金繰りにつきましては、理事長を含む理事の方、それから多田顧問が入りながら、資金繰りについてお話を進めながら、事業体の経営がなされているものと思っております。

○議長（菊池 孝君） 林崎幸正君。

○8番（林崎幸正君） 正直、裏で聞きますと、たしか毎月プレカットの方さ行って、資金が苦しいから、何とかまたお願いすると。次にそういうような形で4、5かな、6もそろそろ来るんだが、それが流れで動いてると。

そこで、そのアドバイスの言葉がちょっと出てあるんですよ。いいですか、副町長。この三木・ランバー2事業体のお金の回転をよくするには、三木とランバー、三木が8人の理事がいると。ランバーが6人。足すことの14人ですね。それと、専務から言わせますと2億あれば、副町長、2億を金融関係からそれなりに融資してもらえれば、もう三木・ランバーにお願いしにいかなくても、回れるような営業体制もつくってやったし、そういうような形をとるべきじゃないかというふうなアドバイスのご意見もいただいている、直接。

そしてさらに、その責任者として前町長、多田欣一、それから森林組合の組合長、柷木澤組合長、その2人を先頭に立たせながら、そういうような流れをつくってやれば、これは十分にいけるといふようなアドバイスを受けました。要するに、多田前町長もそういうふうな

責任感を持った体制の組織づくりをしてやると。そうすれば、そういうように流れがいくというふうな助言をいただきましたが、今、私から聞いて、副町長、どう思いますか。

○議長（菊池 孝君） 副町長、横澤 孝君。

○副町長（横澤 孝君） 多分、資金繰りのほうの2億という話は、両事業体の資金のサイトなんかの期間を見ながらの、2億円ぐらいあれば回っていくというお話があったものと思いますが、その体制につきましては、理事長なり理事たちの皆様で、どう経営していくことを決めていくのか、経営のアップをしていくのか、経営者を決めていくのが第一義的なものだと思います。

○議長（菊池 孝君） 林崎幸正君。

○8番（林崎幸正君） 副町長、2億を1.4で割れば、大体1,500万にはなんねえんだよな、1人頭。1,400ちょっとぐらいになるんだ。1,400万は借りれるでしょう。ましてや多田欣一前町長が責任として前に顔を出してさ。そういうようなこともやらせるような体制をとるべきじゃないか、私はそう思いますよ。特に、出向させた職員にはそれなりの責任とらせて知らないふりして、自分が責任とんねえつうようなばかな話あるか。これは削除しねえからな。顔見たってわからん。

そういうふうな体制をとるべきじゃないかと思いますが、どうですか。

○議長（菊池 孝君） 副町長、横澤 孝君。

○副町長（横澤 孝君） どの理事長が、誰がきちんと2事業体を引っ張って経営していくかということについては、先ほどもお答えしましたが、その理事長なり理事なり、そのご指名を受けた方なりたちが、きちんと2事業体の経営を考えながら決めていくものと思っております。

○議長（菊池 孝君） 林崎幸正君。

○8番（林崎幸正君） 副町長、決めていくと思いますので、どういうふうに持っていかないけねえ立場にあるんだよ。人ごとでねえがすべ。もうここまで来たんだから。それを引き継いで、副町長を引き受けてるわけだからさ、俺から言わせればね、前町長を初め。わかっているとすうんだよ。そうすれば、それなりの顧問にそれなりの役職というか、そういうようなものの先頭に立ってこうしますよと、再建にはこう動きますよという体制つくるべきだと思いますよ、副町長。それをつくってくださいよ。

○議長（菊池 孝君） 副町長、横澤 孝君。

○副町長（横澤 孝君） 何回もご答弁しますが、経営体制の整備につきましては、私がここ

でご答弁するものではなくて、きちんと理事長なり理事、それから関係のある方たちが、先ほども言いましたが、2事業体の経営を考えて、体制を決めていくべきものと思っております。

○議長（菊池 孝君） 林崎幸正君。

○8番（林崎幸正君） それで副町長、お願いがあるんだけど、次のその対策チームのとき、こういうふうな変な議員から、こういうふうなことが出ましたが、いかが思いますか、どうしますかちゅうことを諮ってくださいよ。そのものを後から聞きますんでね。

○議長（菊池 孝君） 副町長、横澤 孝君。

○副町長（横澤 孝君） 今の林崎議員のご質問につきましては、誰かという話ではありませんが、対策チームの中ではそういうご意見は出ております。

○議長（菊池 孝君） 林崎幸正君。

○8番（林崎幸正君） では、そういうようなことをご期待しながら、本当は9月、我々告示前にそれなりのちょっとしたことでもいいから、いいニュースをいただければなと思ひまして、これはこれで終わりますので、次に行きます。

C L Tでございますが、裏の話を聞きますと、住田町でC L T工場をつくって、それなりの経営をも考えていますというふうな情報が入っておりますが、それに対して、要するに土地造成、それなりの準備がどういうふうな形で進んでいるのかお伺いします。

○議長（菊池 孝君） 林政課長、千葉純也君。

○林政課長（千葉純也君） 誘致をしようとしている企業さんのほうと、さまざまな手続、それから造成等について、期間とか日程とかそういった部分を提示しながら協議をしているところであります。

以上です。

○議長（菊池 孝君） 林崎幸正君。

○8番（林崎幸正君） 情報から言いますとね、これ農転とかそういうのちゅうのは考えられるところなんですか、場所が。

○議長（菊池 孝君） 農政課長、紺野勝利君。

○農政課長（紺野勝利君） さまざまな場所について、当然、住田町の場合、山を崩さない限り農地に影響が出るわけでありますけれども、まだ場所が確定しているわけではございませんので、詳しいところはちょっとここでは申し上げられません。

以上です。

○議長（菊池 孝君） 林崎幸正君。

○8番（林崎幸正君） 随分のんきな言葉で言ってくれるのう。企業誘致というのは、誘致したいの、したくねえの、どっち。答えて。

○議長（菊池 孝君） 林政課長、千葉純也君。

○林政課長（千葉純也君） 先ほど町長の答弁のほうにもございましたけども、誘致をしたいということで話を進めているところであります。

以上です。

○議長（菊池 孝君） 林崎幸正君。

○8番（林崎幸正君） 誘致に対しての考え方が、住田町はちょっと違う認識を持ってるんじゃないの。今、この世の中で北上初め奥州、ましてやささらに峠越えれば遠野ですよ。普通は、それなりの情報が入って、それなりの人が行って、その会社に行って面談して、ある程度の把握をすれば、それなりの土地を早く買収しなり、それなりの体制をとって、はい、用地ができました、来てくださいと、そういうふうにするのが誘致じゃないの。どういうふうに思っていますか、お答えください。

○議長（菊池 孝君） 林政課長、千葉純也君。

○林政課長（千葉純也君） 先日も、その企業の方と打ち合わせをしているところであります。その土地の候補は挙げて話はしているところでありますが、最終的な確定ということになっておりませんので、今後もいろいろな用地、それから工事設計とかそういった部分の段階を踏みながら進めていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（菊池 孝君） 林崎幸正君。

○8番（林崎幸正君） いやいやいや、本当に笑いがとまらなくなってきたね。

裏の話では、来年の5月ごろから、要するに工場を動かしたいというふうな話も聞こえてくる。ところが陸前高田は、もう造成してると。遠野を比較したら、遠野は始まってんだよ。遠野は早くしてくださいって。何がっていえばそのとおりでんすよ。もう、釜石道は開通になった、つながったんだ。それは輸出入だったって釜石港を活用していると。何も住田、そういうふうになると、住田で工場を新築して、それなりのやらなきゃねえっていうほうが、誘致企業が考えた場合、大変なことができるよと、私思うんです。間違いなくそういうふうなことの障害がなく、住田町でその企業が期間的にまで我慢して待っているような状態なんですか、お聞かせください。

○議長（菊池 孝君） 林政課長、千葉純也君。

○林政課長（千葉純也君） 先ほども申しましたけども、そういった候補地の部分について、相手の企業様と打ち合わせをしております。どういうふうに、そこにどのぐらいの工場を入れるとか、そういった打ち合わせをしているところであります。

以上です。

○議長（菊池 孝君） 林崎幸正君。

○8番（林崎幸正君） 再度確かめておきますよ。

絶対、その工場誘致に対して、誘致の土地が間に合わないちゅうことないね。もう1回確認しておきます。

○議長（菊池 孝君） 林政課長、千葉純也君。

○林政課長（千葉純也君） そのようにしたいと思っています。

以上です。

○議長（菊池 孝君） 林崎幸正君。

○8番（林崎幸正君） 副町長、したいと思っています。町長が、裏話わかっているから、したいと思っていますでは、これ大変だよ、企業がさ。したいと思っていますでは、だめなんだ。するようにしますという言葉が欲しいんだよ、するようにしますと。絶対間に合うように、必ず俺の責任でもって誘致できるように、土地造成をしますという言葉が俺は欲しい。はい、町長。

○議長（菊池 孝君） 町長、神田謙一君。

○町長（神田謙一君） 企業様と打ち合わせ、それこそ積極的に、場合によっては当方から出向いてでも打ち合わせをしたいということの中で、取り組みを進めておりますけども、物事、構造等々、例えば設置する場合には当然、計画があって、その総論的な部分では企業様のほうでは取り組みを進めていくということまでは、ほぼ決まっていると。現実化していくというような部分で、その用地等々の部分もあるわけですけども、まだ、ある意味では基本設計の段階というふうに捉えております。基本設計の後に、詳細設計等々が入ってくると。

製品の出口等々についても当然、構想があるようですけども、先ほど林崎議員が言ったような時期等々も含めて、ある意味でいうと目標的な形で捉えてはいるようですけども、それに合わせた中で、企業側としてもロスのないような形の中で進めたいというようなところも見えております。その詳細設計まで、まだ進んでない段階のところでのすり合わせと、お互いロスのない中で、しっかり当町に来ていただくための協議として、取り組みを進めている

という状況です。

○議長（菊池 孝君） ここで、8番、林崎幸正君の再質問を保留し、暫時休憩します。

休憩 午後 2時01分

再開 午後 2時11分

○議長（菊池 孝君） 再開します。

休憩前に保留いたしました8番、林崎幸正君の再質問を許します。

林崎幸正君。

○8番（林崎幸正君） 町長、二つだけ聞きます。

住田町に誘致することは、100%間違いございませんね。

○議長（菊池 孝君） 町長、神田謙一君。

○町長（神田謙一君） 100%という表現はものすごく難しく、何事も100%というのは、世の中なかなかないのかなというふうに思っていますが、気持ちはその方向の中で、双方で協議を進めているというところであります。

以上です。

○議長（菊池 孝君） 林崎幸正君。

○8番（林崎幸正君） 二つ目、操業までには必ず土地の確保とか要件とか、そういうのが何も問題なく、操業開始まで逆算しての工事そのものが間に合いますね。

○議長（菊池 孝君） 町長、神田謙一君。

○町長（神田謙一君） 計画は企業ですので、そのとおり計画どおりに時期も含めてというのが当然、目的、目標として掲げてあるわけですけども、その点に関しては、先ほど林政課長も言いました法的な部分、関係法令等々の手続等含めて、先方にこちらから情報提供できる部分はどんどん出しております。

先ほど言いましたとおり、基本設計のところまで行っていますが、詳細設計の部分までは、まだ行ってないという部分で、そこら辺を詰めながらロスのないように、できるだけ目標どおりの形に行けるようにというような中で、作業を進めているところであります。

○議長（菊池 孝君） 林崎幸正君。

○8番（林崎幸正君） じゃ、二つ聞きましたんで、高田、遠野に持っていかれないことを頭に入れながら、この質問はやめて、次の3番目の滝観洞に関しての質問に参りたいと思いま

す。

3月に質問したとき、上有住駅にSLが5分ぐらい停車して、それに対して滝観洞側から見るとのり面に立木があって、何か見づらいということに対して、すぐに担当者に動いてもらいまして、本当に駅のホームから滝観洞センターのほうを眺めても、ずっと見やすいようになりました。本当に感謝を申し上げます。やればできんだなど、今までやんねかったんだなどというふうにつくづく思いましたので、皆さん努力してやるようお願いしたいなど、そういうふうに思います。

答弁では、築47年だと。いろいろ町長からの答弁書は誰が考えたかわかりませんが、温泉そのものちゅうのは、我々、災害協定でも見ていきました丹波山さも行って、大したいい温泉だなど。あそこは人口600人で、それなりに温泉を掘りながら、大した東京都から観光客を入れて、それなりの収入を得ているよっていうと、何でそんなことが住田町でできねえのかとつくづく思いますが、やる気になればできんでねえかなと思いましたが、これの担当は誰さいけばいいんだべね。余計なこと言うなって言われるのかな、農政課長。

○議長（菊池 孝君） 農政課長、紺野勝利君。

○農政課長（紺野勝利君） 先ほど町長が答弁で申し上げましたとおり、なかなか難しいという状況については変わらないと、3月の答弁からは変わってはいないという状況でございます。

○議長（菊池 孝君） 林崎幸正君。

○8番（林崎幸正君） 私もう、この2回ぐらいだね、この3月から滝観洞というようなことで、まだ滝観洞のこの質問を始まっていますが、滝観洞は洞窟で日本一なんだね、洞窟の中では。よその商工観光でも、日本一にするのにお金がかかるわけだ。ところがここまでやっそこ出てきたのに対して築47年だと。いいものにもう少し付加価値をつけてビジネスをするちゅうような考え方があるべきじゃないかと思いますが、いかがなものですか。

○議長（菊池 孝君） 農政課長、紺野勝利君。

○農政課長（紺野勝利君） 今までにも食べ物のほうとか、あとは最近では、洞窟の中に造形物を置くなりさまざまやってきておりますし、町長の答弁にもありましたが、今年度においてもPR事業ですけれども、そういう部分で二つの事業を実施して、取り組んでいきたいものというふうに考えているところであります。

○議長（菊池 孝君） 林崎幸正君。

○8番（林崎幸正君） 我々議員も、いろんな行政に行って視察させてもらって、いろんな首

長の考え方、観光に対しての課長の考え方を、いろいろ聞いて歩いてきました。その中で、一番なるほどなと思ったのが草津なんですよ、草津温泉。

草津温泉は、歴代から草津温泉の、首長ですよ、話聞きますと、温泉の社長が大体、代々草津の町長をお務めだったらしいんですよ。それが、お客さんも下降ぎみになってきたとき、今の黒岩町長が立候補して、町会議員をやっていた黒岩氏、今現在が黒岩町長ですね。その人が立候補して当選して、今の草津温泉を生き返らせた。生き返らせたんだよね、実際は。

そのビジネスの発想が、またすごいんだって。だから、そういうふうな発想転換をすれば、今、やっとこ私もSNSやラインとかでいろんなことを覚えつつある。追いかけていくのに大変だが、そういうふうなライン関係を活用しながら、要するに動画を発信するとかそういうふうな形で観光客を、端的にはそういうようなことをやりながら、観光客を呼び寄せてると。

そしてさらに、ホテルでは1次会だけしか宴会はさせないと。カラオケとか行きたいときは外さ出して、お客さんを外に出して、それなりの商店街に行って楽しんでほしいというふうな流れをつくったんだね。

要するに、今までではだめだったことに対して新しい発想をして、さらにそういうふうな形でお客さんが来て伸びていると。課長、そういうとこなんだよな。片方はそういうふうの下火になってきたのに対して、新しい発想でまた盛り返しているというふうな発想ができないものかなと。金がないから何もしないと、それではだめだよな。ピーバイシーばかり言ってるようじゃ何もなんない。そういうふうな発想でなく、もう少しそれなりのお金をかければ、こうなっていくんじゃないかちゆうふうな発想がとれないものか、副町長、答弁お願いします。

○議長（菊池 孝君） 副町長、横澤 孝君。

○副町長（横澤 孝君） 草津温泉の件はちょっと、若干、私も知っておりまして、ホテル内で、ある時期から一環して、その中でお客さんを中に置いて、外に出さないでホテルがもうけるという仕組みを、ホテルで1回皆さんを外に出して、地域全体でお金をもうけるという発想にいったのは、本当に大変いい発想の転換だと思ってますし、我々行政、そういう立場にとってもハードありきじゃなくて、やっぱりそういう発想は大事ですので、観光面に限らずそういう発想を持つような職員をこれからも育成し、そういうふうな業務ができていったらいいなと思います。

○議長（菊池 孝君） 林崎幸正君。

○8番（林崎幸正君） 副町長、そういうふうな発想を持っているような情報交換を、課長会議なりでそういうようなときに発揮してほしいなど。ビーバイシー言っていて伸びねえよ。俺責任持つから、それなりの発想してやれというふうな流れをつくるべきだと思うんで。絶対足を引っ張らないように、47年も経ってるんだから、滝観洞に少し金を突っ込もうかというふうな流れをつくってくださいよ。

それをお願いして、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（菊池 孝君） これで、8番、林崎幸正君の質問を終わります。

◇ 佐々木 信 一 君

○議長（菊池 孝君） 次に、3番、佐々木信一君。

〔3番 佐々木信一君質問壇登壇〕

○3番（佐々木信一君） 3番、佐々木信一です。

通告によりまして大きく2項目、町長に対し質問いたします。

大きい1点目、ストロベリー振興について。

町では、イチゴ栽培の活性化に向け、今年度、ストロベリープロジェクトの予算化をしました。具体的な取り組みについて、次の点をお伺いいたします。

1点目、住田町に、もう一度イチゴの産地を取り戻したいということが、具体的な取り組みをどのように進めていくのかお伺いいたします。

2点目、イチゴ農家の経営を、地域おこし協力隊に継承する取り組みを実施するとしているが、進捗状況はどうなっているのかお伺いいたします。

大きな2点目、竹林整備について。

1点目、以前、竹林整備を進めていたが、東日本大震災の発生、事故により取り組みを中止していました。今後、放置竹林の活用策をどう進めていくのかお伺いいたします。

2点目、タケノコを活用した竹メンマプロジェクトを立ち上げ、竹メンマの加工に取り組むべきと思うがどうかお伺いいたします。

1回目の質問を終わります。

○議長（菊池 孝君） 答弁を求めます。

町長、神田謙一君。

〔町長 神田謙一君登壇〕

○町長（神田謙一君） 佐々木信一議員のご質問にお答えをいたします。

まず、大きな一つ目のご質問でありますけれども、ストロベリー振興についてお答えをいたします。（１）、（２）は一括して答弁をさせていただきます。

まず、ストロベリープロジェクトの取り組みについてであります。

議員ご承知のとおり、当町はかつて販売額１億円以上を誇ったイチゴの産地でありました。しかし、その後はイチゴの栽培者は減少し、現在では数戸という状況になっております。

イチゴは単位面積当たりの収益性が高く、農地面積の少ない当町に向けた品目であります。また、町内農家の事例から見ても、イチゴは農業で生きていける品目の一つと捉えております。このことから、当町を再びイチゴの産地として盛り上げ、新規就農者を育てていくことを目指し、ストロベリープロジェクトに取り組むことといたしました。

具体的な取り組みですが、一つは町内におけるイチゴ農家育成と、その栽培支援であります。イチゴの栽培については、初期投資が大きくなることから、その負担を軽減すべく町単独事業による支援を予定しており、これにより取り組みを拡大しようとするものです。

もう一つは、イチゴ農家の経営承継の取り組みであります。イチゴ栽培は、先ほども述べましたが、初期投資が大きく高度な栽培技術を要する作物であります。そのハードルを越えるべく、現在、町内にあるイチゴ栽培の技術、そして、その栽培施設を引き継ぐ取り組みを進めようとするものです。地域おこし協力隊が３年間、イチゴ農家のもとで研修を行い、任期終了後には研修先のイチゴ農家の経営を引き継ぐという考えであります。この取り組みは、農業の第三者承継のモデルになるものと考えております。

イチゴ農家の経営を、地域おこし協力隊員に継承する取り組みの進捗状況についてですが、今年７日を締め切りとして募集を凶ったところ応募がありまして、現在は書類を確認しているところであります。来月上旬に、二次審査の面接を実施することとしております。

次に、大きな二つ目のご質問であります竹林整備についてであります。竹材及びタケノコなど林産資源の有効活用を図り、また景観整備ということも考慮して、町内の竹林整備に要する経費に対して助成する竹林整備事業を、平成22年度から実施してきたところであります。これまで308アールの竹林の整備が行われてきたところでありますが、平成26年度からは実績がない状況となっているところであります。

放置竹林の活用策ということですが、竹林を有効に活用していくためには、竹林整備は必要なことと考えられますので、この竹林整備事業を活用していただき、林産資源の有

効活用を進めていただきたいと思いますと考えております。

タケノコの放射線量の問題ではありますが、現在、本町においては出荷停止の作物とはなっておりませんが、風評被害等の影響により県内スーパーへのお荷が中止となった経緯もあり、現在は近隣の産直や、町内加工業者以外へのお荷はしていない状況と捉えております。これらの状況を踏まえながら竹林整備の実施やタケノコのお荷などを考えていく必要があるものと捉えております。

次に、タケノコを活用したメンマ加工についてであります。

第6次農業基本計画では、6次産業化を推進することとしており、農産物に付加価値をつけて販売していくことは、農家の所得向上、ひいては町の魅力向上に重要であるものと考えております。

タケノコの生産支援としては、先ほどお話ししました竹林整備事業を活用していくことができますし、メンマ加工については、特産品開発事業による支援が可能と考えられます。取り組まれる方がおりましたら、それらの補助金を活用し、所得の向上に取り組んでいただきたいと思いますと考えております。

以上です。

○議長（菊池 孝君） 再質問を許します。

佐々木信一君。

○3番（佐々木信一君） ストロベリー、イチゴ産地ということで、以前は販売額1億円を超していたイチゴ産地でありますけども、ここ数年、数戸にとどまっているということです。イチゴは単収的にも収益性が多く、余り少ない当町でも栽培が可能な品目だと思っておりますし、町長の答弁のとおりだと思います。

最近ではイチゴ栽培の方法も変わってきておまして、ベンチアップ式が主流になってきているわけですが、今、県で進めているこのスマート農業の取り組みも視野に入れながら、農作業の省力化とかコスト削減といった部分は、今後行っていく上でどういうふうに削減していくのかお伺いいたします。

○議長（菊池 孝君） 農政課長、紺野勝利君。

○農政課長（紺野勝利君） 今のご質問は、イチゴということではなくということ。

○3番（佐々木信一君） イチゴだけ。

○農政課長（紺野勝利君） イチゴもですし、それ以外の作物もそうですけれども、スマート農業は岩手県としても積極的に進めております。

今回ですけれども、今回はイチゴ栽培が少なくなってしまったのを復活させようという考え方でやりますので、承継の部分ではなくて、イチゴ農家をふやす部分については、余り負担をかけないでイチゴに取り組んで、もう一度取り組んでもらおうという考え方にしております。

それから、協力隊員のほうで行う部分につきましては、今現在やっている栽培をそのまま活用していくという考えであります。

ただ、先ほど申し上げましたとおり、岩手県では積極的に進める考えではありますので、その他の作目も含めてスマート農業で導入できる部分については、できるだけ積極的に取り組んでいけるように、農協等とも相談しながら進めたいと考えております。

以上です。

○議長（菊池 孝君） 佐々木信一君。

○3番（佐々木信一君） イチゴを取り戻したいという部分でいけば、従来ハウスでは土を使ってそのままやるという部分もありました。今、主流がまずベンチ栽培という部分であります。新しくイチゴもやっていくという部分に関しては、やはりコストがかかると思いますので、その初期投資の部分がかなりかかると思います。新たにイチゴをやっていく上では、どうしても国や県からの補助事業も必要、なおかつ有効活用していかなければならないと思いますが、今、補助率とすれば、幾らぐらいの補助が受けられる、例えば10アール当たり幾らぐらい、その施設によっても変わると思うんですけども、どのぐらいの補助率があるのかお伺いいたします。

○議長（菊池 孝君） 農政課長、紺野勝利君。

○農政課長（紺野勝利君） 今回、考えておりますのは、町の単独事業での支援で、改めてまた始まってもらおうということを考えておりますので、町の町単事業の2分の1等の事業ですが、ただ大規模に始めたいんだという方が、もしいる場合には、県との協議を進めて、もっと大きな事業が実施できるようなものを考えたいとは考えております。

以上です。

○議長（菊池 孝君） 佐々木信一君。

○3番（佐々木信一君） 継承をする人は1名というか、確保というか見つかりましたよという部分がありましたけども、その継承以外で新たにイチゴ栽培をしてみたいとか、そういう人は、今現在は何人か出てきているのかお伺いいたします。

○議長（菊池 孝君） 農政課長、紺野勝利君。

○農政課長（紺野勝利君） 今、職員等で回って話をしている段階でありまして、確実になっている段階のものは、今のところはございません。

○議長（菊池 孝君） 佐々木信一君。

○3番（佐々木信一君） 先ほど町長の答弁の中に、継承していくという人があらわれたという答弁がありました。

このイチゴ農家の匠の秘術を絶やさないためにも、後継者に伝えるために、さまざまな技術や栽培方法などをデータ化して、それを保存し、新規就農者なり、今度新しく農業を始める人なりに、ノウハウを学べるそういうシステム化の導入も考える時期に来てるのではないかと思います。そういったシステムを導入する考えはないのか、お伺いいたします。

○議長（菊池 孝君） 農政課長、紺野勝利君。

○農政課長（紺野勝利君） システムというものがあればなんですけれども、データ化、あるいは言葉としてきちんと残していくということは、可能なのかなと思いますけれども、今回承継、今現在やってる方から承継する。要するに引き継いでいこうという考えは、この3年間を通じて体で覚えてもらおうと。なかなか文字にならない部分も、多分、今までの経験からあるものだと思うんですが、そういう意味で意義があるのかなというふうに考えて、進めようとしているものであります。

○議長（菊池 孝君） 佐々木信一君。

○3番（佐々木信一君） 確かに体で覚えていく部分もそのとおりなんですけども、この今、住田で一生懸命やってる農家の人は、ちょっとかなりさまざまな技術とか、それとか栽培方法等を身につけております。それを、どうしても形に残して保存していくべきではないのかなと。新たにというか、後世にというか、そういった部分を今後、伝えていくためにも、やっぱりそういった部分はデータ化して残していくほうが、今後のイチゴ栽培にいいことなのかと思いますが、そういった部分はどういうふうに考えているのかお伺いします。

○議長（菊池 孝君） 農政課長、紺野勝利君。

○農政課長（紺野勝利君） 確かに、後世にそういう記録を残していくということは大切なことなのかなというふうに思いますが、ちょっと今、考えているかと言われると、ちょっと考えてはおりませんでした。今後、そのような形の記録を残すことも考えていきたいものと思えます。

以上です。

○議長（菊池 孝君） 佐々木信一君。

○3番（佐々木信一君） なかなか技術というのは身につけようとしても、なかなか身につけにくい部分もありますので、体で覚え、目で見、そういうのを体験しながらいくのが一番、学びとすれば早いのかなと思っております。

もう一つの農家のこの承継については、やはり継続は力なりと昔から言っておりますので、継続していくのが住田町にとっては一番の課題かなと思っております。途中でやめられたり、抜けられたりすることは、ちょっときついのかなと思うので、例えば今回の部分でいけば、10年とか15年とかの契約を交わすことも必要かなと思いますが、そういった部分はどのようなふうを考えているのかお伺いいたします。

○議長（菊池 孝君） 農政課長、紺野勝利君。

○農政課長（紺野勝利君） 今回は、地域おこし協力隊員ということで雇用するという考え方になりますので、10年とかそういう契約ということにはならないかとは思いますが、今度、面接という答弁もございましたけども、これから農業についてどのようなふうな考えを持っているのかという部分を、しっかり話を聞きながら採用等いろいろ、この事業を進めていきたいものと考えております。

○議長（菊池 孝君） 佐々木信一君。

○3番（佐々木信一君） 承継していただいて、住田町で3年なり5年勉強して、今度、私、別なところに行きますとかっていう、住田町の技術をそのまま持ち帰ることも、何回か今までありました。そういった部分をやっぱりなくすためにも、やっぱりそういったある程度の契約的な部分が必要かなと思いますが、再度、その辺はどのようなふうな今後、考えていくのかお伺いいたします。

○議長（菊池 孝君） 農政課長、紺野勝利君。

○農政課長（紺野勝利君） 先ほどと同じ答えになりますけども、今回は地域おこし協力隊員で3年ということですので、採用のときに考えていくというふうなことになるかと思えます。

以上です。

○議長（菊池 孝君） 佐々木信一君。

○3番（佐々木信一君） 3年という契約ではありますけども、なかなか住田町からのその技術等々の流出といったらおかしいのかもしれないけども、そういった部分は避けてもらいたいなと思えます。

あと、イチゴに関していけば、住田町でオリジナルの品種をつくり、住田ブランドという

部分を今から、遅いんですけど今からでも考えて取り組んでいくべきと思いますが、そういったブランド化という部分はこれから、今後進めていく考えはないのかお伺いいたします。

○議長（菊池 孝君） 農政課長、紺野勝利君。

○農政課長（紺野勝利君） このプロジェクトがうまくいって、生産者が多くなってきたときにはブランド化ということもできようかと思いますが、今、これから取り組み始めるところということですので、将来的にはそのようなことも考えながら、取り組んでまいりたいものと考えております。

以上です。

○議長（菊池 孝君） 佐々木信一君。

○3番（佐々木信一君） イチゴにしろ、いろんな野菜にしろ、なかなか住田町では継続という部分でいけば難しいというか、長続きしないというのがあるわけなんですけども、その中で、やはりこういうふうなオリジナルのものがあれば、意外と継続して長くつくっていただけるのかなと思っております。そういった部分について、ぜひ今後はこういったオリジナルのものも進めていってほしいなと思っております。

次、タケノコというか竹メンマのほうに入ります。

先ほど町長の説明の中にもありましたけども、町内のタケノコのセシウムは低いというか大丈夫ですよということがありましたけども、大体幾ら、どのくらいのセシウムの量になっているのかお伺いいたします。

○議長（菊池 孝君） 農政課長、紺野勝利君。

○農政課長（紺野勝利君） ここ3年間、義務はないんですけども、農家の方が多分、出荷するのに必要なために検査に、農政課に持ってきたというものはずすけれども、この3年間で6回検査をしております。それで、30年の1回だけ出ておまして、それ以外は不検出です。そのときの数値はといえば、30ということになりますので、30ベクレルということになりますので、問題になるのは100ベクレルを超えた場合ということになりますので、基本的には出荷できるということになります。

以上です。

○議長（菊池 孝君） 佐々木信一君。

○3番（佐々木信一君） タケノコの場合は30年度に1回、30ベクレルということでもあります。そうすると出荷には余り影響がないということで、町内には約9ヘクタールの竹林があるとされておりまして。近年では鳥獣被害の発生4位になり、放置竹林が拡大しています。

このタケノコ以外の活用策として、竹メンマの加工や竹パウダーの開発が必要と私は考えておりますが、福岡県の糸島市では、年間4トンほどのメンマを製造していると新聞で見て、当町のこの放置竹林の解消と竹林整備につながると思い、この竹林整備とメンマづくりに取り組む考えはないか伺いたします。

○議長（菊池 孝君） 農政課長、紺野勝利君。

○農政課長（紺野勝利君） 先ほど答弁のほうでも申し上げましたけども、新しい加工等につきまして、新しいといいますか農産物の加工等につきましてはさまざまな支援策がございますので、それを活用しながら取り組みを進めていただきたいものというふうに考えております。

○議長（菊池 孝君） 佐々木信一君。

○3番（佐々木信一君） 町内でも以前、こういった加工で、加工施設をつくってありまして、今は活用してないんですけども、そういった部分でいけば、あるものを有効活用という部分もできると思います。

このメンマというのは、中華料理店では年間3万トン使われておりまして、そのメンマの原料はマタタケで、ほぼ中国から輸入されております。国内メンマは孟宗竹やマタタケなど、日本に自生している竹が使われます。このタケノコのように掘る必要はなく、この根本から切って縦に4等分し、そして皮を剥ぎ、カットして1時間ほどゆでて、その後30%の塩水に塩漬けをして、1年間保存ができるというものなんです。これを製品化するときには塩抜きをして、味つけをして販売するわけなんですけども、こういった新しい仕事づくりという部分に関してもできると思うので、ぜひ取り組みたいなと思いますが、どうか伺います。

○議長（菊池 孝君） 農政課長、紺野勝利君。

○農政課長（紺野勝利君） 確かに先ほど議員がおっしゃいましたとおり、孟宗竹でできるということは、こちらでもわかっておりましたけれども、先ほども申し上げましたが、もし取り組んでいただける方がいるのであれば、ぜひ支援策をご活用いただいて取り組んでいただければというふうに考えております。

以上です。

○議長（菊池 孝君） 佐々木信一君。

○3番（佐々木信一君） 取り組む人があればということなんですけども、できればみんなで取り組みたいと思いますので、プロジェクトチームなどを立ち上げて取り組んでいきたいと思いますが、そういったときのプロジェクトチームをつくる際の支援なり援助なりは、どうい

ふうな形で調達すれば進めていく考えかお伺いします。

○議長（菊池 孝君） 農政課長、紺野勝利君。

○農政課長（紺野勝利君） 町長の答弁にもありましたとおり、竹林の整備、それから加工の部分、今で考えればその支援が確実に受けられるのかなというふうに考えております。

○議長（菊池 孝君） 佐々木信一君。

○3番（佐々木信一君） そうすると、やる人が出てくれば、確実に進められるという部分で捉えてよろしいのでしょうか、お伺いします。

○議長（菊池 孝君） 農政課長、紺野勝利君。

○農政課長（紺野勝利君） 補助事業には当然、条件等もございますけれども、そういうものをクリアできればできるということになるかと思えます。

○議長（菊池 孝君） 佐々木信一君。

○3番（佐々木信一君） それでは、竹林の整備という部分でいけば、かなりやれるのかなと思えますし、また、この竹メンマづくりによって新たな商品ができてくるのかなと思えます。そういった部分に関して、今後、町としてもその取り組みに対して、いろいろバックアップ等々お願いをいたしまして、私の一般質問を終わります。

○議長（菊池 孝君） これで、3番、佐々木信一君の質問を終わります。

◎散会の宣告

○議長（菊池 孝君） お諮りします。

本日の会議はこれで散会したいと思います。ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（菊池 孝君） 異議なしと認めます。

したがって、本日はこれで散会することに決定しました。

本日はこれで散会します。ご苦労さまでした。

散会 午後 2時50分

